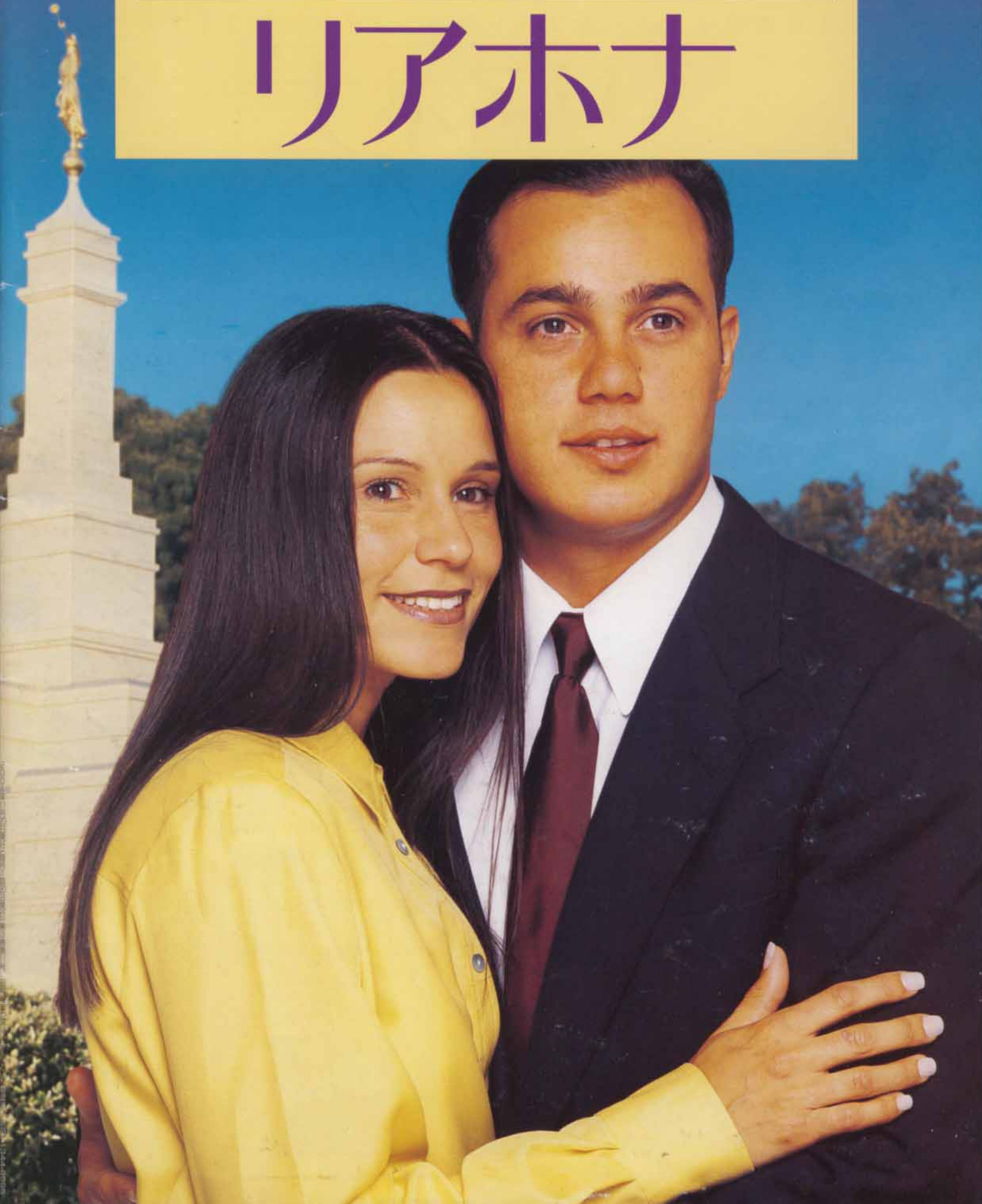


末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年11月号

リアホナ



リアホナ

一般

- 2 大管長会メッセージ——魔の運び屋—ボルノグラフィ—
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 8 生ける預言者の言葉
- 16 儀式と聖約 七十人会長会 デニス・B・ノイエンシュバンダー
- 24 家庭訪問メッセージ——神聖な音楽で生活と家庭に祝福をもたらす
- 32 ケニアのチュルに見られる開拓者精神 E・デール・レバロン
- 39 御霊の力によって教える ジル・パルシファー・ジョーンズ
- 40 末日聖徒の声——「あらゆる良い機会に積極的に取り組んでください」
わたしの恩師 ホアキン・フェノイヤ・パタイエ
隠された本 ルース・ドーセット
恐れることはない
ベティーナ・ベアトリス・サルバティエラ・デ・サンチェス
主に後を託す ロンディー・S・ルドルフ
結婚指輪を磨く 葛徳光
- 48 「リアホナ」2001年11月号の活用法



表紙

表紙——フォトイラストレーション/クレグ・ダイヤモンド

裏表紙——フォトイラストレーション/クレグ・ダイヤモンド、ジェド・A・クラーク



「フレンド」表紙

珪鑽は、仲が良く愛にあふれる趙 家族の7人きょうだいの一人である。「韓国、釜山に住む趙光鎮と趙榮鎮」4ページ参照(写真/メルビン・レビット)

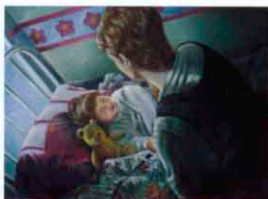
青少年

- 7 誘惑との闘い ダリン・リスゴー
- 10 名誉の帰還 十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 25 リアホナ・クラシック——青少年への敬意
十二使徒定員会 デルバート・L・ステイプラー
- 28 後輩同僚 ジョン・L・ハウター
- 31 溶け込めなかったわたし ジェニ・ウィルダソン
- 46 訪問者 ケン・メレル

フレンド

- 2 ゲーム——教義と聖約の物語 コーリス・クレートン
- 4 友だちになろう——韓国、釜山に住む趙 光鎮と趙 榮鎮
- 7 助言の中に安全を見いだす 十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 8 新約聖書ものがたり——水の上を歩かれるイエス/命のパン
- 12 分かち合いの時間——よげんしゃがわたしたちに知らせます
ダイアン・S・ニコルズ
- 14 「先生がいいって言った？」
ジャナイン・ミケルソンがシーラ・キンドレッドに話した話

10ページ参照



40ページ参照



32ページ参照

2ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アムハラ語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長: デニス・B・ノイエシユバンダー
顧問: L・ライオネル・ケンドリック、菊地良彦、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者
実務部長: ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ
編集主幹: マービン・K・ガードナー
編集副主幹: ロジャー・テリー
編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド
編集補助: スーザン・バレット
出版補佐: コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ
機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンベン
デザイナー主任: シェリー・クック
デザイナー: トーマス・S・チャイルド
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
制作: レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニス・カービー、ケリー・プラット、ティナ・ソレンソン、クラウディア・E・ワナー
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン
予約購読スタッフ

ディレクター: ケイ・W・ブリッグス
配送部長: クリス・クリステンセン
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン
●定期購読は、『リアホナ』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

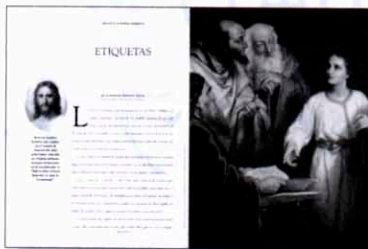
印刷所 株式会社 明文社
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines November, 2001. Japanese. 21991 300

For Readers in the United States and Canada:
November 2001 no.11. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



「ラベル」に感謝

『リアホナ』(スペイン語版)にととても感謝しています。そして特に、2000年9月号のトーマス・S・モンソン副管長の大管長会メッセージ「ラベル」に感謝しています。また、同じ9月号の末日聖徒の声「主よ、わたしはここにおります」にも深く感動しました。

スペイン・グラナダ地方部、

グラナダ支部

マルガリータ・サルメロン・ガリード

友、そして助け手

『リアホナ』(スペイン語版)はすばらしいです。それを通して自分の生活に多くの助けが与えられています。『リアホナ』を読んでいるおかげで、わたしは以前よりも善い娘、そして善い妻であることができます。まだ母親にはなっていませんが、その時が来たら、自分にできる範囲の中で最高の母親になるように努力するつもりです。この機関誌は、わたしが母親になったときに果たすべき責任に備えるうえで助けとなっています。

善い行いを続けましょう。なぜなら世の中には、時折寂しさを感じている人々がいるからです。そしてこの機関誌はわたしたちの友であり、助け手なのです。

ホンジュラス・ダンリストーク、

ブエナエスペランサワード

クラウディア・イサベル・デ・レサマ



「心の平安を見いだす」はためになりました

『リアホナ』(英語版)2000年6月号の「教えに教えを——心の平安を見いだす」は読んでためになりました。慈愛と高慢に関するテーマも採り上げていただけたらと思います。わたしはいつも大管長会メッセージから靈感を受けます。そのメッセージの助けによって、わたしは自分の態度を幾つか変えることができました。大管長会メッセージは、恐らくほかの人にも助けを与えていると思います。

ナイジェリア・イバダン地方部、

イバダン第6支部

オオセニ・モジソラ

神は人々の心に働きかけられる

毎月『リアホナ』(スペイン語版)を楽しく読んでいます。わたしは毎日、これをほかの本と一緒に大学へ持って行きますが、学校ではいつもみんなが『リアホナ』の中身を知ろうとして、わたしから借りていきます。みんなとてもこの機関誌を気に入っています。わたしは彼らに関心を持つように努めているので、教会について話すことができます。彼らは必ずしもわたしの言うことに注意を払うわけではありませんが、わたしは福音を分かち合うという大義を忠実に守っています。神は人々の心に働きかけられます。わたしはこれまで、『リアホナ』のおかげで友人たちが教会に活発であり続けたり、専任宣教師となったりするのを見ました。

エクアドル・グアヤキル・バスクアレステーク、

フロール・デ・バスチオンワード

アンギエ・ヘレリア

魔の運び屋—— ポルノグラフィー

第一副管長 トーマス・S・モンソン



イギリスのヒースロー空港付近の田園地帯で威容を誇ってきたニレの木立に、きこりたちの^{おの}斧や電動のこぎりの刃が入れられた、という記事を読んだことがあります。

その中には樹齢100年を越す大木もあったとのことでした。今までどれだけ多くの人があるのその美しさをめでたことでしょうか。心地よい木陰でどれほどの人がピクニックを楽しんだことでしょうか。うっそうと生い茂った緑の枝の間を飛び交いながら、幾代にわたる小鳥たちがさえずりの歌を響かせたことでしょうか。

しかし、この大木はもはや枯れてしまっています。老木だからではありません。繰り返される干ばつのせいでもありません。この地方を度々襲う強風のためでもありません。この恐るべき破壊者は一見無力に見えますが、その破壊者の招く結果はまったく悲惨です。その張本人こそオランダニレの木にとって、致命的病害の運び屋、木食い虫です。この害虫はヨーロッパやアメリカー帯でニレの大森林を食い尽くし、その死の行軍は衰えることなく続いています。その害虫を駆除しようと、手を尽くしましたが、失敗に終わりました。

オランダニレの木の病害は、まず木の先端部の若葉から始まります。そして次第に低い枝も冒され、夏の盛りにはほとんどの葉が黄変して縮み、落ちてしまいます。こうなる

と、木の活力は衰え、死が近づいて来ます。森は生気を失い、木食い虫の犠牲になるだけです。

このニレの木は、何と人と似ていることでしょうか。ほんの小さな種が神の計画に従って生長し、養われて成熟します。天から注ぐまぶしい陽光、地の豊かな恵みはすべてわたしたちのものでした。家族や友人たちのいる森での生活は

オランダニレの木にとって致命的病害の運び屋、木食い虫は、ニレの大森林を食い尽くしました。この木食い虫のように、ポルノグラフィーも致命的病害の運び屋です。



モンソン副管長の写真(ドゥン・パサ、絵/キャリー・ヘンリー)

豊かで麗わしいものです。そこへ突然、現代の人々の眼前に、忌まわしい魔性の敵、ポルノグラフィーが出現するのです。それが木食い虫同様に、命にかかわる病害を運びます。わたしはそれを「致命的放縦病」と名付けたいと思います。

人々は初め、病菌に冒されていることにほとんど気づきません。卑わいな話や気の利いた漫画に笑いこけ、のんきな言葉を使います。彼らは、貴く神聖なものをすべて汚し、破壊してしまおうとする者たちのい

わゆる「権利」を熱心に保護しています。このポルノグラフィーという虫は恐るべき力でわたしたちの意志をくじき、免疫性を失わせ、上へ伸びようとする力を抑えてしまいます。

このようなことがほんとうにあり得るのでしょうか。確かに、「致命的放縦病」に当たる事柄はそれほど重要視されていません。しかし実情はどうでしょうか。目を見開いて見ましよう。聞きましよう。そして、行動を起こましよう。



ポルノグラフィーと犯罪

このような病害の運び屋、ポルノグラフィーは一大産業となっています。それは害悪です。人々を汚染し、とりこにします。近年の推定によれば、ポルノグラフィーに合衆国だけで年間80億から100億ドルが消費されたとのことです。¹ それほどの富が、高尚な目的に使うことのできるどころから、悪の企てに吸い取られているのです。

ポルノグラフィーの問題に対する無関心のほとんどは、「別に人に危害を加えるわけでもないので、警察には別の方面で活躍してもらった方がよい」といった一般市民の姿勢にもよるところが大きいでしょう。州や市の条令もほとんど効果がなく、罰則は軽く、ポルノグラフィー産業のうまみに比べると危険など物の数ではないのです。

ある調査は、ポルノグラフィーが性犯罪と直接結びつく可能性があることを指摘しています。同調査によれば、性犯罪に陥った青少年のうち、女子の87パーセント、男子の77パーセントはポルノグラフィーの使用を認めており、そのほとんどが自分たちの犯罪のきっかけとなったと述べています。²

ある出版社、印刷業者は、毎日何百万部というポルノ雑誌を発行して印刷機を汚しています。しかも、費用を惜しみません。上質の紙一面にカラー刷りの写真を載せて何とか読まれるものにしてしているのです。映画やウェブサイト、テレビの制作者、芸能人もこの汚名をぬぐい去ることはできません。慎みは過去のものとなり、いわゆるリアリズムがもてはやされています。

ある人気俳優は、こう嘆いていました。「放縦もすでに限界にきました。わたしの最新作も酷悪そのものでした。脚本を読んだとき、これはいかげわしいと思いましたが、今も下品な映画だと思っているのですが、撮影所のスタッフが金曜日の特別試写会で少し上映したら、それが視聴者に好評なんです。」

また別の俳優はこうも言っています。「映画の制作者も出版社と同じように金もうけ主義なんです。大衆に受けるものを作ってもうけようとしています。」

ある人々はポルノグラフィーを「ソフトコア」と「ハードコア」に区別して、その間に一線を引きたいと必死ですが、現実には双方とも、大して変わりはありません。アレクサンダー・ポープの古典、「人間論」はまさにそのことを如実に物語っています。

悪徳は醜悪極まる風体の怪物、

見るだけならば憎まれるべき運命にあるのに

見ることが多ければその顔に慣れ、

まずは辛抱、次いで哀れみ、果ては抱擁と来る。³

このポルノグラフィーという木食い虫^{どんよく}の貪欲な休みない行進は、辺りを食い尽くし、人の生活をむしばんでいきます。

ある一帯はポルノグラフィーの虫に食い尽くされ、崩壊寸前の状態にあります。そしてこの木食い虫は同様に容赦なくあなたの町、あなたの近隣、あなたの家族に近づきつつあるのです。今やポルノグラフィーはこれまでよりはるかに入手しやすくなっています。ボタンを一押しすれば、テレビやコンピューターの画面で邪悪なものが見られるようになっていきます。ホテルや映画館、さらにインターネットへの接続が可能となっている職場でさえもそうなのです。

わたしたちには、愛する者をポルノグラフィーの致命的な汚染から守る防波堤としての責任があり、またその力があります。



警告

カールトン大学の元学長、ローレンス・M・ガウルド氏は不吉な警告の言葉を発しています。

「わたしたちの未来を脅かす最大の脅威は爆弾でも誘導ミサイルでもない。現代の文明はそのようなことでは滅びないであろう。文明が滅びるのは、人々の無関心による。アーノルド・トインビーは、これまで21の文明のうち19までが外からの侵略ではなく、内部の問題によって滅びたと指摘している。これらの文明が朽ちるときには、奏楽も、翻る旗もない。崩壊は少しずつ、だれも気がつかない暗がりですら静かに起こるのである。」⁴

わたしは、封切

りになったばかりのある映画の評論を読んだときのことを覚えています。主役の女優は記者に、脚本や自分の役柄に対して真っ先に抗議したと語っていました。14歳の少年の性のお相手というのが彼女の役どころでした。彼女はこう述べています。「最初は『こんなシーン、わたしにはとてもできません』と申し上げました。そうしたら、その場に、少年のお母様を必ず同席させると保証してくださいましたものですから。それでお受けしたんです。」

考えてみてください。自分の息子がコブラにかまれようとしているのを、ただじっと見てられる母親がいるのでしょうか。母親が息子にヒ素やストリキニーネを飲ませようとするのでしょうか。母親の皆さん、どうでしょうか。父親の皆さん、わたしたちはどうでしょうか。



このことに関連して、昔から、今もなおわたしたちの耳にこだまする言葉があります。

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人々を石で打ち殺す者よ。ちょうどもんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。

見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。」⁵
今日も古代のソドムとゴモラが存在しています。このソドムとゴモラはほこりの積もった、めったに開かれない聖書のページを飛び出し、実在する町としてよみがえり、「致命的放縦病」という大病を世に蔓延させています。

わたしたちの作戦

わたしたちには、愛する者をポルノグラフィーの致命的な汚染から守る防波堤としての責任があり、またその力があります。その作戦を3つの具体的なステップとして提案したいと思います。

1. 義に立ち返る。自分が何者で、神はわたしたちがどうなることを期待しておられるかを理解すれば、個人として、また家族として祈ることの必要性を感じるはずで、そのとき、「悪事は決して幸福を生じたことがない」⁶という不変の真理についてはっきりと知ることができるはずで、悪魔のじゃま立てを許してはなりません。わたしたちは、確実な指示と大きな影響力を与えてくれる、あの静かな細い声に導かれることができるのです。

2. 良い生活を求める。わたしは快樂的な生活、ぜいたくな生活、俗的な生活を言っているのではありません。永遠の命、すなわち母親や父親、兄弟、姉妹、夫、妻、息子、娘とともに永遠に住むことのできる生活を追い求めていただきたいのです。

3. 「致命的放縦病」とは断固戦い、勝利を収めていくと決意する。ポ

清い生活をしましょう。主に聞き届けられるような祈りをささげ、主に喜んでいただけるような行いをしようではありませんか。そうすれば、ポルノグラフィーという木食い虫の死の行軍を阻むことができるでしょう。

ルノグラフィーという魔の運び屋に出会ったなら、かつてのアメリカで知れ渡っていた言葉「悪には近づくな」⁷をわたしたちの戦いの旗印、この社会の旗印にしようではありませんか。

ヨシュアとともに声高く叫びましょう。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」⁸心を清く保ちましょう。清い生活をしましょう。主に聞き届けられるような祈りをささげ、主に喜んでいただけるような行いをしようではありませんか。

そうすれば、ポルノグラフィーという木食い虫の死の行軍を阻むことができるでしょう。「致命的放縦病」も勢いを失うでしょう。そして、わたしたちはヨシュアとともにヨルダン川を渡り、約束の地すなわち神の日の栄えの王国において永遠の命にあずかるのです。□

注

1. *U.S. News and World Report*, 1997年2月10日付, 43参照
2. ウィリアム・マーシャル “A Report of the Use of Pornography by Sexual Offenders” 参照, 1983年, カナダ, オタワ
3. ジョン・パートレット, *Familiar Quotations*, 第16版 (1992年) 301
4. 生命保険広告協会, *Scientific American* 1968年5月号, 56
5. ルカ13:34-35
6. アルマ41:10
7. *Familiar Quotations*, 779
8. ヨシュア24:15

ホームティーチャーへの提案

1. ポルノグラフィーは、忌まわしい敵です。
2. わたしたちには、ポルノグラフィーの致命的な汚染に抵抗する責任があり、またその力があります。
3. そのための作戦として以下の3つがあります。
 - 自分が何者で、神はわたしたちがどうなることを期待しておられるかを理解する。
 - 永遠の命を求める。すなわち、永遠にわたって家族とともに暮らせる、尽きることのない命を求める。
 - 清い心。清い生活を送り、主に聞き届けられるような祈りをささげ、主に喜んでいただけるような行いをする。



誘惑との闘い

ダリン・リスゴー

誘惑との闘いは終わりのない闘いですが、だからといってあきらめてそれに屈してもよいというわけではありません。あなたがどこにいても、だれにいても、もっと簡単に誘惑に対抗するのに役立つ方法を以下に紹介しましょう。

■高い標準を思い出させてくれるもの(救い主の絵、聖句の引用、『リアホナ』に掲載されているポスター)をリュックサックやかばんに忍ばせます。

■冗談を言う前に、自分の母親や父親、あるいは監督にその冗談を言ったとしたらどうなるかを想像してください。もし決まり悪く感じるなら、その冗談を言わないで心の中にしまっておきましょう。

■同じ標準を持つ友人を探してください。周りの人も正しいことを選ぶように努力していれば、自分が正しい選択をするのがさらに容易になります。

■早朝セミナーに間に合う時間に起きられないなら、目覚まし時計をベッドから離れた場所に置きます。そうすれば、時計を止めるために立ち上がらなければならないようになります。

■自分の思いと行いの結果についていつも考える。次のように自問してください。「イエス・キリストはこのようなことをされるだろうか。」

■誘惑に駆られるような思いを心から退けるために、賛美歌をハミングした

り、聖句を暗唱したり、ほかのことをしたりして気分転換します。

■自分の身に降りかかる誘惑を克服できるように導きと助けを祈り求めます。

■定期的に聖文を読み、セミナーに出席します。わたしたちの霊は、肉体と同様、健康を保ち、誘惑を撃退するために、毎日の養いを必要とします。

■天の御父は、あなたの忍耐できる以上の誘惑を受けないようにされることを覚えていてください(1コリント10:13参照)。□





ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告

生ける預言者の言葉

なすべきことを行いなさい

「わたしは将来のことについてはあまり心配していません。また、過去のことについてもさほど憂慮してはいません。過去はすでに過ぎ去ったものであり、それを変えることはできません。……将来について言えば、期待を抱けるものの、必ずしも多くの働きかけができるわけでもありません。皆さんが対処しなければならぬのは現在の事柄です。ですから、なすべきことを行うために、自分に与えられるあらゆる良い機会に積極的に取り組んでください。」¹

どこに住んでいようと立派な市民となりなさい

「わたしたちの民はどこに住んでいようとも、立派な市民でなければなりません。これは、わたしたちの最も重要な教義の一つです。すなわち、わたしたちの住んでいる国にあって立派な市民となることです。わたしたちは自分の属する社会に貢献する者とならなければなりません。」²

善い隣人となりなさい

「〔主は〕わたしたちが善い隣人となるよう、また人に親切にするよう、さらに、わたしたちと信仰の異なる人々にも親切にするよう望んでおられます。さらに、わたしたちが寛容な心と愛と敬意をもってそうした人々に手を差し伸べて、支援し、高め、助けて祝福をもたらすよう期待しておられるので

す。

イエスは、王国でいちばん大切な、第一のいましめは何かと尋ねられました。その問いに主はこう答えられたのです。『心をつくし、……〔力をつくし、思いをつくし、精神をつくして〕主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』（マタイ 22：37-39）もちろん、実践は容易ではありません。簡単にできることではありませんが、わたしたちはそれを目指して努力しなければならず、また絶えずその努力を続ける必要があります。わたしたちは人を支援するために手を差し伸べる必要があります。わたしたちがそうするならば、この教会に対する人々の尊敬の念や評価は必ず高まっていくことでしょう。天の神は、わたしたちが人をよく助け、善い隣人となり、そして普段接するすべての人々の友人となるよう望んでおられるのです。」³

わたしたちは教育の力を信じている

「わたしたちは教育の力を信じています。主はその民に対して、霊に関することだけにとどまらず、この世の事柄にも精通するよう命じられました。できるかぎりあらゆる学校教育を受けることをわたしたちの義務とされたのです。この世の生涯では、教育はあらゆる人にとって機会を得る鍵となりま

す。教育を受けるためには犠牲も必要かもしれません。並々ならぬ努力も必要かもしれません。しかし、天の助けがあれば、それも可能となるのです。」⁴

改宗者の定着

「わたしは、もしわたしたち一人一人がひざまずいて主に祈り、だれかをこの教会に導いて来ることができるよう主に助けを求めるならば、主は大変喜ばれるであろうと考えています。そして、そのような時が訪れたら、皆さんはその人の信仰がしっかりと根付くまで、できるかぎりその人に寄り添ってあげてください。そのようにすれば、教会に入った後で離れてしまう人はだれもいなくなることでしょ。」⁵

神殿の祝福に備える

「わたしの兄弟姉妹の皆さん、まだ神の宮に参入した経験をお持ちでない皆さんに、わたしは今朝、持てる限りの力を込めて訴えたいと思います。今日から、過去の悔い改めを始め、自身の生活を整えてください。そのようにすれば、皆さんは神殿に行き、心から愛する人々と皆さんとを、そして皆さんにとって最もかけがえのない人々と皆さんとを結ぶことができます。……主を信頼してください。わたしは主の僕として、主が皆さんを祝福して下さると約束したいと強く感じています。主の神殿の扉が皆さんに向かって開かれ、皆さんは神殿へ行って、

その豊かで驚くべき祝福を享受できるようになります。また、夫と妻が、親と子どもたちが、家族として結び固められるようになり、互いに愛と尊敬の念を抱きながらともに住むことができるようになるのです。』⁶

神殿の業

「わたしたちは一つの民として、世界の歴史上どの民にもなかったほどの偉大な任務と偉大な責任を受けています。わたしたちには、イエス・キリストの福音の祝福を、この地上にかつて住んだあらゆる人々、現在この地上に生活しているすべての人々、そしてこれからこの地上に生を受ける人全員に〔携えていく〕責任があります。これほど偉大な責任を与えられた民はほかには存在しません。家族が永遠であるという偉大な教義を、また死者のために身代わりの業を行うという驚くべき教義を、心の中で愛し敬う忠実な末日聖徒たちを神が祝福してくださいますように。』⁷

□

「わたしたちには、イエス・キリストの福音の祝福を、この地上にかつて住んだあらゆる人々、現在この地上に生活しているすべての人々、そしてこれからこの地上に生を受ける人全員に〔携えていく〕責任があります。」

注

1. 2000年2月25日 『デゼレトニュース』(Deseret News) との会見
2. 1999年11月2日 『チャーチニュース』(Church News) との会見
3. 2000年1月31日 グアム, 集会
4. 2000年1月26日 オーストラリア, ケアンズ, 集会
5. 2000年1月22日 ハワイ州オアフ, 地区大会
6. 1999年4月26日 チリ, サンティアゴ, 地区大会
7. 1999年1月31日 ユタ州ソルトレーク・ジョーダNSTEAK, 大会





永遠の命という目標に到達したいのであれば、この地上において理解し、守らなくてはならない律法、儀式、聖約があります。

「クリスタス」パルナル・トリバルセン作。
フォトイラストレーション/ジェド・ス・クラーウ

名誉の帰還

わたしたちの生活に平安と喜びがもたらされるよう、またわたしたちが名誉の帰還を果たせるよう、天の御父は愛を込めて戒めを与えてくださっています。



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ

わたしは若いころ、合衆国空軍にジェット戦闘機パイロットとして所属していたことがあります。爆撃戦闘機第308中隊の各部隊ごとに、士気を高めるためのモットーが定められていました。わたし

の部隊のモットーである「名誉の帰還」という文字は、戦闘機の機体側面を飾っていました。「名誉の帰還」というモットーのおかげで、基地へ戻る前に与えられた任務をあらゆる面で遂行するために最大限の努力を払って、名誉の帰還を果たすという決意を常に覚えておくことができましたのです。

進歩という永遠の道に立っているわたしたち一人一人にも、この「名誉の帰還」と同じモットーを当てはめることができます。天の御父とともに住んでいた状態からこの世に来たわたしたちは、天の家に名誉の帰還を果たすという決意をしなくてはなりません。

緊急処置

パイロット養成の訓練を受ける過程で、実際の飛行をシミュレーションするリンクトレーナーという地上訓練機を使って訓練を受けることが必修となっていました。教官は訓練生であるわたしたちに、音速で飛ぶこともあるジェット戦闘機を操縦するときに発生し得る緊急事態について詳しく教えてくれました。

わたしたちは惨事を回避するための処置方法を、緊急事例別に教わりました。万一実際の緊急事態が発生した

場合条件反射的に対処できるよう、その処置法を何度も繰り返し練習したものです。そのようにして、万一飛行機に機械的な欠陥が生じた場合の処置法を正確に会得していきました。さらに飛行機の操縦が不可能になった際、パラシュートで脱出するときの高度を決定する練習も繰り返し行いました。

わたしの中隊に、フットボールに秀でた友達がいきました。入隊する何年も前に、彼のチームは新年に行われた優勝決定戦に出場しました。スタジアムいっぱいの観客と大勢のテレビ観戦者の前で、彼のチームは大敗してしまいました。後になり、彼を含むチームの何人かが訓練規則を守っていなかったことが判明しました。結果、彼らは高い代償を払うことになりました。大きな試合でプレーする準備ができていなかったという自責の念と、あの試合の得点が、生涯付きまとうことになったのです。

それから何年もたちました。そのフットボールチームのメンバーが二人、わたしと同じ訓練部隊に属していました。一人はあの決勝戦の教訓から十分学んだ模範的^{かがみ}で規律正しい学生で、まさにパイロットの鑑のような人でした。

しかしもう一人は、自分より知識や経験のある人に耳を傾けるということ学んではいけませんでした。緊急処置法を学び、精神的にも肉体的にも反射的かつ瞬間的に反応するためにあらかじめ必要な調整をするための順番が来ても、彼は教官の肩に手をかけて、「緊急処置訓練を3時間やったことにしておいてください」と言っただけで、訓練をさぼって射撃場に行くか、ゴルフをしに行くか、将校クラブに行くのでした。彼が緊急処置法を学ぶことは一度もありませんでした。

計器盤

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

航 空パイロットが惨事を回避するために一定の規則を遵守しなくてはならないように、永遠の命という目標に到達したいのであれば、この地上において理解し、守らなくてはならない律法、儀式、聖約があります。飛行士にとって計器盤の警告指示器に反射的に対応するための訓練が大切なように、緊急処置法を学び生活の中で点滅する警告ランプに条件反射的に反応する力を養うことがわたしたちにとっていっそう大切なのです。

計器盤には5つの主要な計器があります。



コンパスは磁気や強い風でわたしたちが進路から逸脱することがあっても地軸を基準とした北の方向を示します。

聖霊はわたしたちを正しい方向に導いてくださいます。



対気速度計は安全飛行のための速度を示します。

失速し墜落しないためにはわたしたちは前進しなくてはなりません。

あるとき彼は緊急事態が発生したらどうするつもりかという質問を受けました。彼の答えはこうでした。「わたしがパラシュートで脱出するような事態は決して起きません。緊急事態に遭遇することも絶対ありません。」

それから数か月たったある夜の任務飛行のとき、彼の乗っていた飛行機で火災が発生し、飛行機は炎に包まれてくるくる回転しながら1,500メートル降下しました。彼とともに搭乗していた年少のパイロットは火災報知ランプに気づき、「逃げよう」と言いました。そして訓練をまじめに受けていた年少のパイロットは遠心力を使い、パラシュートで脱出しました。パラシュートは一気に開き、彼は地面にたたきつけられて重傷を負ったものの、一命を取り留めました。

しかし、わたしの友達は飛行機から脱出することなく、墜落死してしまいました。彼は命を救ってくれたはずの教訓から学ばなかった代償を支払ったのです。

航空パイロットが惨事を回避するために一定の規則を遵守しなくてはならないように、永遠の命という目標に到達したいのであれば、この地上において理解し、守らなくてはならない律法、儀式、聖約があります。飛行士にとって計器盤の警告表示器に反射的に対応するための訓練が大切なように、緊急処置法を学び生活の中で点滅する警告ランプに条件反射的に反応する力を養うことがわたしたちにとっていっそう大切なのです。計算を間違ったり航空計器を正確に読まなかったりして墜落してしまう飛行士がこれまでに大勢いました。注意を怠ったり、聖霊から受ける警告をわざと無視したりすれば、道を外れ、名誉の帰還を果たすという目標を達成する前に墜落してしまうかもしれません。

個人用の警告ランプは多様な理由で作動します。アルコール、たばこ、不法薬物、ポルノグラフィーによってランプが点灯します。なぜなら、そのような物質を用いることを選ぶならば、わたしたちはそれらの奴隷になり、善悪を判断する力が制限されるようになるからです。それらを条件反射的に拒む術を身に付けておく必要があります。さもなければ、わたしたちに道を示し導きを与える御霊を得る権利と天の御父のもとに帰る能力を失いかねません。

イエスが荒れ野に出て40日間断食されたとき、サタン

がやって来て、わたしたちを誘惑するときと同じものを用いてイエスを誘惑しました。それは富、権力、俗世への愛着です。イエスはサタンに退いて今後二度と誘惑しないようにと命じられました。しかしわたしたちは自らの行いによりサタンを招いていることがあります。

航路より外れる

わたしが水平感覚を失うことについて教わったのは、教官がわたしを外が見えなくなるよう天蓋てんがいが覆われた操縦室で飛行機を操縦する訓練に連れ出したときのことでした。そのような状況では計器に頼るしかありません。教官はわたしが気づかないうちに、重力で体が座席に押しつけられる状態のまま、飛行機が逆さまになるよう徐々に旋回させました。わたしの耳はこのゆっくりとした旋回を察知できなかったのです。そのとき教官はわたしに操縦するように言いました。当然ながらわたしはこ

イエスが荒野に出て40日間断食されたとき、サタンがやって来て、わたしたちを誘惑するときと同じものを用いてイエスを誘惑しました。それは富、権力、俗世への愛着です。イエスはサタンに退いて今後二度と誘惑しないようにと命じられました。





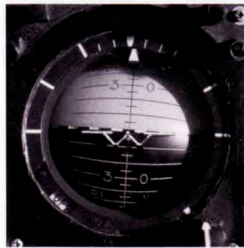
燃料計は燃料の消費量と残量を示します。

キリストのような生活を送ることにより霊的な水準を高く持ちましょう。



高度計はパイロットがあらゆる障害物の上を飛行することができるよう高度を知らせます。

この世的なものよりも高いところにいれば乱気流や障害物を避けることができるでしょう。



姿勢表示器により正確に水平状態を保つことが可能になります。

正しい姿勢を保てば、航路の上をまっすぐ水平に飛ぶことができます。

計器飛行をするには計器に絶対的な信頼を置かなくてはなりません。同様に、聖霊に従い耳を傾けていれば、自分の生活の中で聖霊から受ける警告に気づくようになるでしょう。もし警告を無視すれば、わたしたちは代価を支払わなくてはならなくなり、その分永遠の進歩が妨げられてしまうのです。□

の訓練を受けたすべての訓練生たちが行ったのと同じことを行ったのです。高度が下がり始めていたため、わたしは操縦桿を引いてしまいました。まさか自分が逆さまになっているとは知らず、地面に向けて突っ込もうとしていたのです。

再び自分の思いどおりに飛行機をコントロールできるようになると、着陸装置の小さなマークが逆さまになっていることに気づきました。教官は、重力で体が座席に押しつけられた状態のまま2、3度ずつ旋回すれば、まっすぐな水平飛行から外れたことを人に気づかれないまま、飛行機を逆さまにすることができるという原則を教えてくださいました。この変化はまったく感じることができません。

もしわたしたちが用心していないと、霊的に水平感覚を失うこともあり得るのです。もし2、3度ずつ、ほとんど悟られない角度で従順の航路から外れれば、わたしたちは方向感覚を失い、永遠の目的地を見失ってしまい、航路からどれほど外れているかも分からない状態に陥ってしまうのです。そうなればわたしたちは愚かな選択をしてしまいます。わたしの飛行機が少しずつまっすぐな水平飛行から外れていったように、わたしたちもまっすぐで狭い道から外れると、混乱し、永遠の目標を見失ってしまうのです。

救い主はわたしたちが墜落することを望んではおられません。主はわたしたちが永遠に主とともに住むためのまっすぐで狭い道に戻れる正しい航路を選ぶよう望んでおられます。主は「わたしに従ってきなさい」と語られました(ルカ18:22)。そしてわたしたちを航路に沿って進ませ、主のもとに帰る道を示す光を与えてくださいました。

わたしたちはだれであるか

もし自分がだれであるか、すなわち自分が肉体を受け経験により知恵を得て最後まで堪え忍ぶためにこの地上に来た天の御父の息子や娘であることを覚えていれば、そしてどこへ行こうとしているのか、つまり御父のもとへ帰ろうとしていることを覚えていれば、わたしたちは救い主より示された模範ならに倣って生活することができるでしょう。

わたしは父親として、息子一人一人が伝道に出るとき、その息子の肩に腕を回し、耳もとでこのようにささやきました。「名誉の帰還を果たすのだよ。」わたしは天の御父が、みもとを離れるわたしたち一人一人の肩に腕を回し、「名誉の帰還を果たすのだよ」とささやいておられる光景を思い浮かべることができます。

わたしは皆さん一人一人が天の御父に祈り、導きを求めるよう願っています。わたしたちが従順になり、主の御霊^{みたま}を受けられるように、また自分がだれなのか覚えていることができるように、そして主の戒めに従順でいられるように、さらに天の御父のもとへともに名誉の帰還を果たすことができるように祈っています。□

1998年5月3日、コロラド州コロラド・スプリングズ、合衆国空軍士官学校での教会教育システムファイヤサイドにおける話より翻案。



儀式と聖約

神聖な儀式と聖約により
わたしたちの生活に神からの力が授けられます。



七十人会長会
デニス・B・ノイエンシュバンダー

わたしたちは皆、教会の使命は「キリストのもとに来てキリストによって完全になるようにすべての人を招くことによって、人の不死不滅と永遠の命をもたらすのを助けること」であると理解しています。救い主が捕らえられる直前に使徒たちに与えられた最も重要な教えの一つが、ヨハネによる福音書に記録されています。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』¹これと同じ教義を、ベニヤミン王は次のような言葉で教えています。「全能の主であるキリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。』³

これらの聖文と、その他数多くの古代と近代の聖文は、イエス・キリストとイエス・キリストの贖いの犠牲が救いの計画のまさに中心にあるという基本的な教義を立証しています。イエス・キリストの名によって、またその名を通じてのみ救いが与えられるという教義と、イエス・キリストのもとに来るようにすべての人を招く教会の使命は、この地上にかつて生を受けた、あるいは将来生を受ける人すべてにかかわるものであると、末日聖徒は考えています。この教義は当然、すべての人を包み込み、除外される人や免除される人は一人もいません。教会はすべての人をキリストのもとに来るように招くというこの使命をどのように成し遂げるのかという質問に答えるに当たって、わたしたちは皆、「福音を宣べ伝え、聖徒を完全な者とし、死者を贖う」ことによって、と即

答します。もちろん間違いではありません。しかし、このように即答すると、実に大切な部分を見落としてしまいます。この質問に対する正確な答えは次の声明の中に述べられています。

1. すべての国民、部族、国語の民、民族に主イエス・キリストの永遠の福音を宣べ伝え、福音の儀式と聖約にあずかる備えをさせる。
2. 福音の儀式と聖約にあずかる備えをさせることにより、また昇栄を得るに必要な指導と訓練を行うことにより、聖徒を完全な者とする。
3. この世を去った人々のために身代わりの福音の儀式を行うことにより、死者を贖う。

生者のためにも死者のためにも行われる神聖な儀式にあずかり、儀式に伴う聖約に忠実かつ従順であることは、イエス・キリストの福音の基本であり、イエス・キリストのもとに来てイエス・キリストによって完全になる過程の中で基本となるものです。儀式と聖約のこの基本的な役割に焦点を当ててお話ししたいと思います。

非常に広い意味で、神が御自分の子どもたちの生活に当てはめさせようとして、その権能によって制定されるすべてのものは、神の定め (ordnance) と言ってよいでしょう。ですから神の戒め、掟、



神聖な儀式にあずかり、儀式に伴う聖約に忠実かつ従順であることは、イエス・キリストの福音の基本であり、イエス・キリストのもとに来てイエス・キリストによって完全になる過程の中で基本となるものです。



布告、要求は当然のごとく、神の定めと定義づけられます。もう少し狭く解釈するなら、定め (ordinance) とはきわめて具体的かつ神聖な目的と重要性和意味を持つ、儀式という厳粛な行為でもあります。わたしはこの狭義の定め、すなわち儀式についてお話しします。

儀式についての異なる見解

近代のキリスト教世界における儀式の役割についての一般的な見解を少し挙げてみたいと思います。プロテスタントの諸教派では、恵みと信仰は救いに対する主要な、あるいは唯一の条件であるという考え方が支配的でした。救いのプロセスにおいて恵みが果たす役割が強調されればされるほど、儀式の重要性が損なわれます。すなわち、救われるか否かは神の気まぐれに任されていると信じるならば、儀式にあずかることはほとんど意味を持たなくなります。同様に、主イエス・キリストを信じる信仰を持つことが救いを得るための主要な、あるいは唯一の条件であるとするれば、やはり儀式にあずかる必要はないことになります。さらに、信仰が救いを決める唯一の要素であるとするれば、キリストについて一度も聞いたことのないおびただしい数の人々やキリストの名への信仰を告白する機会のなかつ

たおびただしい人々は一体どうなるのでしょうか。

儀式にあずかることの意義が失われると、神の権能の重要性も意味のないものとなります。そうであれば、どんなバプテスマでもよいこととなります。実際、多くの教会がほかの教会で施された洗礼を有効なものとして受け入れています。その結果、神の権能の概念と、救いの条件として適切に儀式を執行することの重要性が、甚だしく損なわれています。

自然な考え方が一つあります。すなわち、古代の使徒の権能の上に教会が築かれていると主張すれば、それに応じて、神聖な儀式と儀式を執行する神の権能が際立って強調されるということです。西方のキリスト教世界で発展を見たカトリック教会と東方におけるギリシャ正教会はともにこの立場を取りました。それぞれが神の権能を主張し、西方の慣例において秘蹟、また東方において機密と呼ばれた神聖な儀式の重要性を教えています。これには基本的に7つのものがあります。すなわち、洗礼、堅信、聖体、(告白を含む)告解、叙階、婚姻、それに(病人あるいは死亡前の)終油です。

末日聖徒イエス・キリスト教会も古代に起源があると主張しています。したがって、儀式と聖約の役割、ならびに儀式を執行する神の権能の必要性をきわめて重要視しています。信仰簡条第3節は次のように教えています。

預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「人の救いのために、神権によって、創世の前に天において定められた儀式は、変更されるはずがないのです。」



「わたしたちは、キリストの贖罪しよくざいにより、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」⁴

神聖な儀式と儀式を執行する神の権能は、福音の回復や1830年の近代の教会の設立とともに始まったものではありません。救いと昇栄の条件である福音の神聖な儀式は、「創世の前から定められたもの」⁵でした。福音においてこれらは常に変わらない部分でした。預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「人の救いのために、神権によって、創世の前に天において定められた儀式は、変更されるはずがないのです。すべての人は同じ原則に基づいて救われなければならないのです。」⁶

そうでなければ、救いは実際偶然が支配するものとなり、イエス・キリストについて聞き、イエス・キリストを信じた少数の幸運な人々にのみ限られていたことでしょう。この不変の原則を一貫して満たすというところに、神殿で代理の儀式を執行する真の意義があるのです。預言者は、死者のためのバプテスマとそのバプテスマを記録することは「福音を知らずに死ぬ者の救いのために、主が創世の前に定めかつ備えられた儀式と備えに」⁷ 従うものであると記しています。

しかしながら、キリストの復活と昇天に続く背教と時の経過によって、神の神権の権能と神聖な儀式は変更され、あるいは失われ、またそれに関する聖約も破られました。主はこの状況に不快感を表し、次のように述べておられます。

「彼らはわたしの定めから離れ去り、わたしの永遠の聖約を破った。

彼らは主の義を打ち立てるために主を求めようとせず、すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩む。」⁸

この状況に対して、生者、死者の両方のために行う神聖な福音の儀式の意義と重要性に関する知識、また儀式

を定められた方式で執行するために必要な知識、ならびに儀式を執行するための神聖な権能である神権と神権の鍵かぎの回復が必要でした。



**わたしたちは聖餐せいさんを受けるとき、
進んでキリストの名を受け、
いつもキリストを覚え、
キリストの戒めを守ることを
表明します。**

適切に執行される神聖な福音の儀式に自ら進んでふさわしい状態であずかるならば、その行為はキリストのもとに来てキリストによって完全になるという決意において非常に意義深いものとなります。そうするために必要な幾つかの事柄についてお話ししたいと思います。

神を知る方法

第1に、わたしたちは神聖な福音の儀式に自ら進んであずかることによって神を知るようになります。教義と聖約第84章には次のように述べられています。

「また、この大神権は福音をつかさどり、王国の奥義の鍵、すなわち神の

知識の鍵を持つ。

それゆえ、この神権の儀式によって神性の力が現れる。

また、神権の儀式と権能がなくては、肉体を持つ人間に神性の力は現れない。」⁹

神聖な儀式にあずかることによって、神の王国の秩序について、また神について多くを学びます。例えば、福音の最初の儀式の一つであるバプテスマを受ける前に神殿に参入して最も神聖な儀式の幾つかにあずかることができるのであれば、不自然に思われるでしょう。神の王国には秩序があり、神の王国について学ぶ方法には順序があります。主はニーファイに言われました。「わたしはここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて、それを人の子らに与えよう。わたしの訓戒を聴き、わたしの勧めに耳を貸す者は、知恵を得るので幸いである。わたしは受け入れる者にさらに多く与え、『もう十分である』と言う者からは、彼らが持っているものさえも取り上げる。」¹⁰

別の折に、主は次のように述べられました。「神から

出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついに真昼となる。」¹¹

わたしたちは一度にすべてを受けません。わたしたちがふさわしく、また従順であるとき、その度合いに応じて聖なる事柄についての知識が増し加えられるのです。わたしたちは王国の最初の儀式であるバプテスマから始まって、確認や神権への聖任など、ほかの儀式へと進みます。これらはすべて神殿内で執行される最も聖なる儀式に通じるものです。福音の神聖な儀式にあずかると、王国の知識が秩序立ったものとなり、それによって、神の属性がわたしたちに明らかにされるのです。

神聖な儀式と神に関する知識は近い関係にあるものです。では、神が定められた儀式にあずかることによって、わたしたちは神についてどのようなことを学べるのでしょうか。バプテスマを例に挙げてみましょう。水に沈めるバプテスマは罪の赦しのためにあります。自分の罪を十分に悔い改めて、十分に固い決意をもってバプテスマを受ける人は、神には赦しを与える力と罪を犯したという罪悪感の重荷を取り去る力があることを知るだけでなく、神がほんとうにそうして下さることも知るのである。この人は個人的な経験によって、神と神の壮大な力と思いやりを知るのです。これらの事柄を実際に知る唯一の方法は、ふさわしい状態でバプテスマの儀式そのものにあずかることなのです。

バプテスマは神の王国への扉を開きます。人は清い状態でその扉を通るだけでなく、神が赦しを与えて下さるという確かな知識をもって通るのです。福音のほかの神聖な儀式についても同じことが言えます。時が過ぎ、従順さが認められると、わたしたちは神殿の儀式に進みます。そこでは、わたしたちの最も尊い人々との関係は死の影響を受けないという確信が強められます。わたしたちが儀式にあずかることによってこのことを知り得る

のは、儀式がわたしたちにこのことを教えるように意図されているからなのです。これ以外の方法では知らされませんし、知ることはできません。預言者ジョセフ・スミスは、神聖な儀式にあずかることによって神聖かつ必須の真理を知ることができるということを、次のような言葉で教えています。「ほかの人々の経験や、ほかの人たちに与えられた啓示を読んだとしても、わたしたちの状態や神との真実の関係について完全に理解することなど決してできないのです。これらの事柄に関する知識は、その目的のために定められた神の儀式を通して、経験によってのみ獲得できるのである。」¹²

神聖な儀式は段階的に神の王国の秩序を明らかにするので、わたしたちが儀式にあずかるならば、神の個性と性質がわたしたちに知らされます。これをほかの方法で得ることはできません。



**わたしたちは
王国の最初の儀式である
バプテスマから始まって、
確認や神権の聖任など、
ほかの儀式へと進みます。**

聖約に至る手段

第2に、神聖な福音の儀式は厳粛な聖約を神と交わす手段です。儀式と聖約を切り離して理解することはできません。わたしたちは儀式によって聖約に入り、聖約によって儀式を受けます。子供の命名と祝福、病人への癒しの祝福、慰めの祝福など、聖約を伴わない儀式にもありますが、儀式とかかわりのない永遠の聖約というものはありません。わたしたちが神に近づく重要なステップは、神聖な儀式によって始まり、それらの儀式に関連する聖約の条件によって定められるのです。

恐らく、ここで聖約というものの特質について一言述べておくのが適切だと思います。永遠の聖約を差し出す、あるいは提議することができるのは神のみです。そのような聖約はすべて神に由来するものです。それは神がそれらが墓を超えても有効であると保証する権能と力をお持ちの唯一の御方だからです。

「また主は言う。わたしによらずに、あるいはわたし

の言葉によらずに定められる、世にあるすべてのものは、それが人によろうと、また王位や主権や力や何でも名のあるものによろうと、それは倒されて、人の死後、復活の時にもその後にも残ることはない、と主なるあなたの神は言う。』¹³

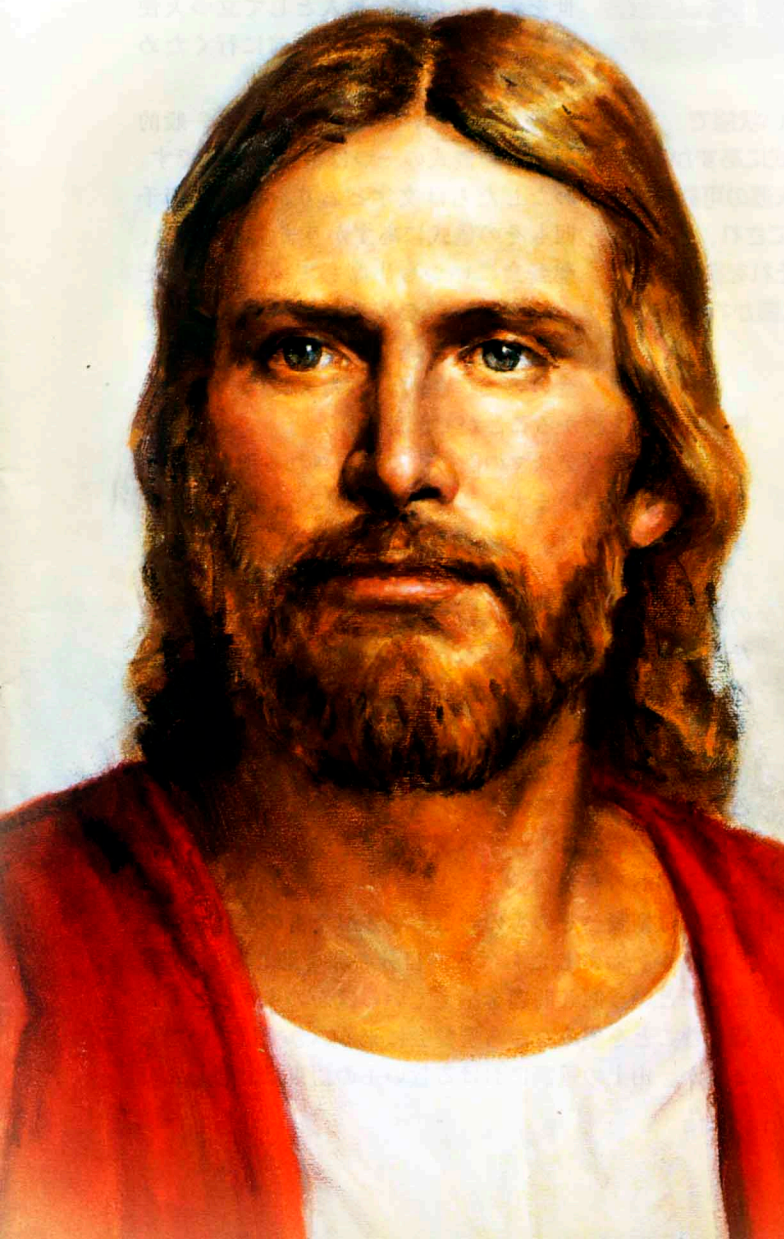
わたしたちがこのような聖約を設けることはできません。わたしたちにはそれらを保証する力がないからです。その結果、わたしたちにできるのは、神がわたしたちに

差し出してくださる聖約に入ることだけです。そして、わたしたちは神が定めてくださった方法によってのみ聖約に入れるのです。もちろん、その例は明らかで、数多くあります。福音そのものは神と人との間の新しくかつ永遠の聖約です。わたしたちはただ一つの方法、すなわち罪の赦しを得るために水に沈めるバプテスマによってその聖約に入ることができます。その儀式に従わなければ聖約に入れませんし、祝福も受けられません。神は罪の赦しを与えることができになり、またバプテスマによって神の王国の一員になるという祝福を授けることができになる唯一の御方です。もちろん、このような祝福には聖霊の賜物たまものも含まれます。

バプテスマの儀式と聖餐せいさんも切り離せません。バプテスマによって、わたしたちは自分の罪の赦しを得ます。聖餐によって、わたしたちは罪の「赦しを保てる」¹⁴のです。バプテスマと聖餐にあずかることによって、わたしたちは、進んでキリストの名を受け、キリストの戒めを守り、いつも御子を覚えることに同意します。すなわち、聖約します。そのいずれの場合も、儀式に従うことを基として、神は、わたしたちが御霊みたまを受けられるようにしてくださるという約束、すなわち聖約を差し出してくださるのです。聖約の性質を理解し、その条件に従って生活すると、儀式そのものに命と意義が与えられます。

主は次のように問いかけておられます。「わたしが命

贖罪しよくざいそのものの力は、神権かぎの鍵の下で執行される神聖な福音の儀式によってその扉が開かれます。



じなかつたものを、あなたがたの手から受け取るであろうか。』¹⁵儀式そのものが聖約と密接に結びついているように、主に受け入れていただける儀式には神聖な福音の儀式を執行するように定められた権能が不可欠です。救い主は最初の訪れの際にジョセフに次のように述べられました。「彼らは唇をもってわたしに近づくが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人の戒めを教義として教え、神を敬うさまをするけれども神の力を否定している。』¹⁶

「神を敬うさま」とは、洗礼、聖餐、結婚など、キリスト教の多くの教会にとって一般的な儀式を指すのかもしれませんが。これらはすべて同じように執行されているかもしれませんが。しかし、神権の権能とそれに伴う聖約がなければ、その儀式の力は否定されます。もしも儀式から神権の権能と聖約がなくなれば、「神を敬うさま」になるだけです。

神からの力の賦与

第3に、神聖な儀式によりわたしたちは生活に神からの力が授けられます。救い主はピラトとの会話の中で、「わたしの国はこの世のものではない」¹⁷と言われました。数多くの聖文が、世と神の王国との間にはもともと対立があることを教えています。神の王国を世から隔てているものの一つは、そこに存在する聖なる感覚です。世が持つことができるのは俗世の感覚だけです。ふさわしい状態で神聖な福音の儀式にあずかると、わたしたちの生活は変わり、ほかでは享受できない祝福と力が与えられます。贖罪そのものの力は、神権の鍵の下で執行される神聖な福音の儀式によってその扉が開かれます。バプテスマの儀式によって罪の赦しを受けます。確認の儀式には常に聖霊を伴侶にできるという約束があります。メルキゼデク神権への聖任は、ほかの人々を教え、祝福し、慰めることによって「すべての人が主なる神……の名に

よって語る」¹⁸ために道を開きます。ふさわしい状態で神殿の聖なる儀式にあずかると、わたしたちの永遠の可能性が明らかにされ、わたしたちはそれを実現するという立場に置かれます。ブリガム・ヤング大管長（1801-1877年）は神殿のエンダウメントについてこう教えています。「あなたのエンダウメントとは、主の宮においてこれらすべての儀式を受けることです。これらはあなたがこの世を去った後に、番人として立つ天使たちの前を通って御父の前に行くために必要な儀式です。』¹⁹



**ふさわしい状態で
神殿の聖なる儀式にあずかると、
わたしたちの永遠の可能性が
明らかにされ、
わたしたちはそれを実現する
という立場に置かれます。**

最も麗しい、それでいて最も一般的な福音の儀式の一つは聖餐の儀式です。わたしたちは文字どおり、生涯に何千回もその儀式にあずかります。しかし、聖餐会にいつも出席しているので、その気高い意義を安易に見過ごしてしまいがちです。ふさわしい状態で聖餐を受けると、毎週、わたしたちの生活に

神からの力を授かることができます。

ここで、バプテスマの話によく引用される聖句について述べたいと思います。これは聖餐会にも立派に応用できるものです。

「そして、アルマは言った。『見よ、ここにモルモン
の泉がある。（この泉はこのように呼ばれていた。）あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを……望んでいる。

……主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあろうか。』²⁰

これは聖餐会そのもののことを述べたものではないでしょうか。わたしたちは皆、自分の罪を悲しみながら、また罪という同じ問題を抱えているほかの人々とともに悲しむことを望みながら聖餐会に来るべきではないでしょうか。山上の垂訓における救い主の約束は、悲しんで

いる者は慰められるというものです。聖餐の執行中にこのことが起こります。これが、わたしたちが聖餐会に出席する理由だと思います。わたしたちは聖餐を受けるとき、進んでキリストの名を受け、いつもキリストを覚え、キリストの戒めを守ることを表明します。これに対して、神は、わたしたちがいつも御霊を受けられるようにすると聖約してくださいます。聖なる御霊は慰め主です。わたしたちは自分の罪を悲しみながら聖餐会に出席するとき、慰めを受け、罪の赦しを受けることができます。だとしたら、この神聖な儀式から離れる人々がそれに伴う聖約からも離れるということに何の不思議があるでしょうか。

神聖な儀式は神によって定められたものです。それらはわたしたちの救いと昇栄に不可欠です。福音の神聖な儀式を通して、わたしたちは神の王国について学び、神について学び、聖なる永遠の聖約に入ります。そして、生活の中で神からの力を授けられます。これらの事柄のすべてがわたしたちをキリストのもとに導き、わたしたちはキリストによって完全になれるのです。

わたしは証します。わたしたちは、神によって定められ、創世の前から設けられている神聖な儀式にふさわしい状態であずかることによって、キリストのもとに来て、キリストによって完全になることができます。わたしはイエス・キリストの贖いの犠牲と、イエス・キリストの聖なる名にある救いの力について証します。□

2000年10月27日、ブリガム・ヤング大学におけるファイヤサイドでの話より。

注

1. 末日聖徒イエス・キリスト教会の使命
2. ヨハネ14：6
3. モーサヤ3：17
4. 信仰箇条1：3
5. 教義と聖約124：33
6. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選 (1976年), 308
7. 教義と聖約128：5
8. 教義と聖約1：15-16
9. 教義と聖約84：19-21
10. 2ニーファイ28：30

11. 教義と聖約50：24
 12. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 324, 強調は原書のまま
 13. 教義と聖約132：13
 14. モーサヤ4：11-12参照
 15. 教義と聖約132：10
 16. ジョセフ・スミス-歴史1：19, 強調付加
 17. ヨハネ18：36
 18. 教義と聖約1：20
 19. 『歴代大管長の教え, プリガム・ヤング』330-331
 20. モーサヤ18：8-10
- この主題についてもっと学ぶには、『福音の原則』(31110 300)の第15章「主の聖約の民」を参照。

ブリガム・ヤング大管長はこう教えています。「あなたのエンダウメントとは、主の宮においてこれらすべての儀式を受けることです。これらはあなたがこの世を去った後に、……御父の前に行くために必要な儀式です。」



神聖な音楽で生活と家庭に祝福をもたらす

大管長会は、神聖な音楽には次のような価値があると述べています。「賛美歌は主の御霊を招き……ます。」一人で歌うとき、「賛美歌は……精神を高揚させ、勇気づけ、正しい行動へと導きを与えてくれます。賛美歌は、わたしたちの心を神聖な思いで満たし、平安をもたらしてくれるのです。」家庭で学び、歌うときには、賛美歌は「美と平和を愛する心をもたらし、家族同士の愛と一致を強める力を持っています。」（「大管長会はしがき」『賛美歌』9-10）

個人の力の源

神聖な音楽は、聖霊の影響を受けられるようにわたしたちの心を開いてくれるので、天の御父がわたしたちを祝福し、強めることがおできになる方法の一つとなっています。長年重い病氣と闘ってきたある姉妹は、絶え間ない痛みを苦しんでいました。数年前、この姉妹は長時間にわたって苦痛の伴う医療検査を受けました。終わった後で、どのようにしてその検査に耐えることができたのか尋ねられると、次のように答えました。「心の中で、思い出せるかぎりすべての初等協会の歌を歌っていたんです。痛みはなくならなかったけど、それに耐える力が与えられました。」

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老は、ふさわしい音楽は、ふさわしくない思いを抱く誘惑に打ち勝つためにも役立つ、と述べています。

「皆さんの心のステージが清くない思いに占拠されたらどうすればよいでしょう。……〔好きな〕賛美歌を使って、皆さんの思いが流れ込む道を作りましょう。……ステージにそのメロディーと歌詞が流れれば、ふさわしくない思いは恥ずかしそうにしてステージを離れてしまうことでしょう。」（“Inspiring Music—Worthy Thoughts,” *Ensign*, 1974年1月号, 28）

家庭における神聖な音楽

神聖な音楽には、福音の原則を学び、実践するうえで助けとなるすばらしい力があります。ある姉妹はセミナーのクラスで若人に教会の音楽について話すよう依頼されました。そこでまず始めに、次のように質問しました。「初等協会ではどんなレッスンを習いましたか。」何の応答もありませんでした。それで次に初等協会の歌を覚えているかと尋ねると、たくさんの手が挙がり、数え切れないほどの歌の題名が告げられました。この姉妹は黒板に福音の原則を書き、それぞれの原則の下に初等協会の歌と賛美歌を書き出しました。生徒たちは音楽が福音の原則を教えてくれること、そして、歌や賛美歌、それらが伝えるメッセージは長い間人の心に残ることを、たちまちのうちに理解しました。

福音の原則を教えるために神聖な音楽を用いる家庭は、聖霊の影響を受けることができます。大管長会が両親に次のように助言しているのは、このた

めでもあります。「子供たちに賛美歌を愛するように教えてください。安息日や家庭の夕べ、また聖典を学ぶときや祈りのときにも歌うようにしてください。そして、働くときにも、遊ぶときにも、家族で旅行をするときにも歌ってください。小さな子供たちに、子守り歌として賛美歌を歌って聞かせ、信仰と証を築く一助としてください。」（『賛美歌』10）

わたしたちの生活と家庭がシオンの歌で満たされるときに、わたしたちは「喜びをもって主に仕え」ることでしょう。わたしたちは「歌いつつ、そのみ前に〔来る〕」のです（詩篇100:2）。□



絵 シェリー・リン・ポイヤール・ドゥッティ

青少年への敬意

十二使徒定員会

デルバート・L・ステイプラー (1896-1978年)



1869年、ブリガム・ヤング大管長(上)は、当時「リトレンチメント協会」と呼ばれた若い女性の初期の組織を設立しました。「リトレンチメント協会」の最初の会員は、ブリガム・ヤング大管長の家族(下)でした。

1869年、ブリガム・ヤング大管長は、当時「リトレンチメント協会」と呼ばれた若い女性の初期の組織を設立しましたが、それがどのようなものであったか、皆さんは想像できるでしょうか。ヤング大管長は娘たちのややこの世的な関心や振る舞いを気にかけ、霊性や知性の発達について心配し、若い教会員の間には物質主義、商業主義、世に染まる傾向が広ま



っていることを懸念していました。大管長の娘たちのおもな関心事といえば、若い男の人、社交、演劇、アイススケート、そり、ピクニック、洋服などで、シオンの若い女性

たちの間に見られた一般的な風潮に染まっているように見えました。

教会の大管長として、またデゼレト準州の前知事として、ブリガム・ヤングは準州のすべての住民の道徳的、社会的福祉に対して個人的な責任を感じていました。

若い男性たちについてはそれほど差し迫った問題には思えませんでした。彼らの多くは進学を目指し、聖文によく親しみ、伝道へ出る備えをしており、そのほかの若者は農業や工業に従事したり、家や商店、道路、ワードの集会所、神殿を建てる仕事で忙しく働いたりしていたからです。

家庭では、様々な家事や病人の世話など、若い女性の手助けが必要とされてきました。

ヤング大管長の思いは自分の娘たちに向けられ、女性としての徳をはぐくみ、より完全に豊かな人生を送るため





ヤング大管長は若い人々に「悪いもの、価値のないものはすべて切り捨て、良いもの、美しいものはすべて、さらに向上させる」ように勧めました。

の資質を伸ばす必要があると考えました。

ヤング大管長はエライザ・R・スノー姉妹に、大切な話があるので、家族全員にライオンハウスへ集まるよう告げてほしいと頼みました。心地よい居間で開かれた集会は、忘れ難いものでした。夜の家族の祈りを行った後、ヤング大管長は息子たちと幼い娘たちを退室させ、年上の娘たちの愛らしい顔を見渡して、こう言いました。「教会員は皆、わたしたちの家族に注目しており、わたしの……子どもたちがどんな模範を示すか、見えています。そこでわたしは、皆が秩序、儉約、勤勉、慈善の習慣を付けるために、そして何よりもぜいたくな服装や節操のない話を避け、そのような行動に潜む愚かな話し方や軽薄な思いに対し罪の意識を持

つようお願い、まずわたしの家族を組織して協会を作りたいと思います。悪いもの、価値のないものはすべて切り捨て、良いもの、美しいものはすべて、さらに向上させてください。」(スーザ・ヤング・ゲイツ, *History of the Young Ladies' Mutual Improvement Association* [1911年] 8-10)

「リトレンチ」(retrench) という言葉は、^{こゝろ}今日の世代の人々には、かなり古風で時代遅れに聞こえるかもしれませんが。辞書には、「リトレンチ」の意味は、減らす、縮小または削減する、切り詰める、節約する、といった意味が示されています。

そこで、「悪いもの、価値のないものはすべて切り捨て、良いもの、美しいものはすべて、さらに向上させてください」という上記の引用文の最後の



左下—写真/リチャード・M・ロムニー。左—フォートラストレーション/デレク・イスラエルセン。右—フォートラストレーション/ジェド・A・クラーク。右下—フォートラストレーション/マレン・E・ミーチャム。



文章が、より大きな意味を持つようになります。

チャレンジを受け入れる

ブリガム・ヤングの娘たちは複雑な気持ちでしたが、与えられたチャレンジを受け入れました。エライザ・R・スノーが大管長の言葉を記録し、組織の指針として後に決定された事柄を書き留めました。彼女は、大管長が神の預言者として神から靈感を受け、自分の家族だけのためではなく、教会のすべての若い女性たちの益と祝福のために、「リトレンチメント協会」を組織したことをよく知っていました。

間もなく、娘たちは靈感に呼応し、「ふさわしい模範を示す」努力をするようになりました。1年もたたないうちに、ソルトレーク中の若い女性たちが、居間や学校、ワードの集会所で集会を開くようになりました。

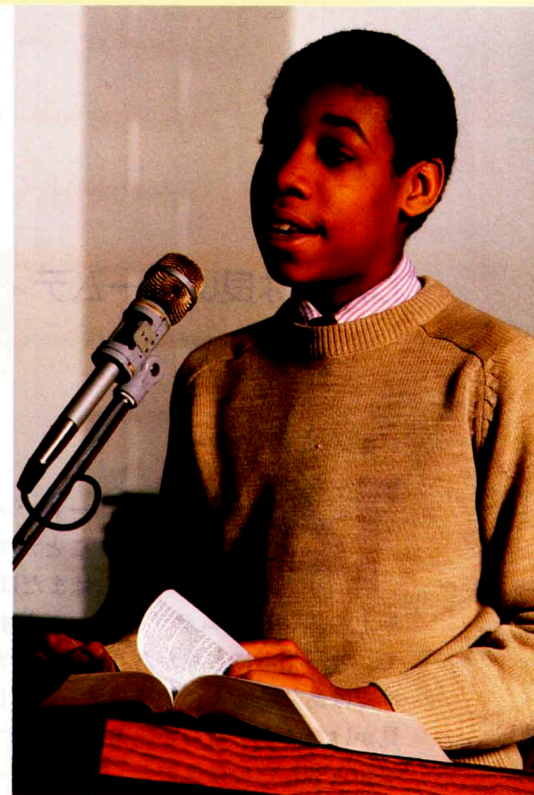
若い男性プログラム

ブリガム・ヤングは「リトレンチメント協会」によってモルモンの地域社

会全体が祝福を受ける様子を見て、教会の若い男性の福祉全般について、特に時間を持って余す冬季の期間について、心配するようになりました。当時の社会構造は単純でした。スポーツや商業的な娯楽はほとんどなく、若い男性にも活動プログラムが必要だと感じました。ジュニウス・F・ウェルズは教会の若い男性たちの相互の成長を図るための協会を組織する割り当てを受けました。この結果、若い男性の「相互発達協会」が組織されました。その後最近まで、「リトレンチメント協会」は若い女性の「相互発達協会」として知られるようになりました。

ブリガム・ヤングはこのように説明しました。「わたしたちの宗教は、人を高める宗教です。限られた狭いものではありません。人々の精神を広げ、わたしたち人類にとって誉れ高き知性の域へと引き上げることを目指しています。」(Deseret News, 1864年6月15日付, 294) □

1969年10月総大会説教より



ブリガム・ヤングはこのように説明しました。「わたしたちの宗教は、人を高める宗教です。限られた狭いものではありません。人々の精神を広げ、わたしたち人間にとって誉れ高き知性の域へと引き上げることを目指しています。」



後輩同僚

わたしは良いホームティーチャーになりたかったのですが、同僚が、その……。

ジョン・L・ハウター

14歳の少年がホームティーチングにどんな影響を及ぼすことができるというのでしょうか。わたしはまだほんの子どもでした。年上の人にホームティーチングをするように言うなんて、分不相応にも程があります。ただ年上の人というだけではありません。相手はまったく面識のない、教会で見かけたことすらない兄弟だったのです。その人について知らされたのは名前と、以前スポーツ選手だったということだけでした。

それより3か月前にわたしはホームティーチングの後輩同僚に召されました。そして、まだどこにも訪問できていませんでした。二人の親友がすでに活発にホームティーチングを行っていましたが、それとてわたしの心を癒してはくれませんでした。一人は自分の父親と、もう一人は長老定員会会長の一員と同僚を組んでいました。わたしの父親は監督会で働いており、その当時はホームティーチャーとしての割り当てを受けていませんでした。14歳の同僚に何をしろと言うのでしょうか。

この罪悪感はジェンセン兄弟のせいだとわたしは決めつけていました。彼は執事定員会のアドバイザーで、ホームティーチングの大切さを教えていました。またアロン神権の教師は忠実にホームティーチングを行う義務があるとも教えました。さらにわたしたちはひよっとすると先輩同僚にホームティーチングに行くことを思い出させ励ますことが必要になるかもしれないと警告しました。

結局、わたしは自分に与えられた選択肢はとも分かりやすいものなのだという結論に達しました。先輩同僚が電話してくるまで待っている間何とかして罪悪感を抱かないように頑張るか、こちらから彼家に出向いて行って自己紹介をし、ホームティーチングの計画を立てるか、二つに一つでした。

一つ気になったのは、彼が先輩同僚だということでした。主導権を握るのは彼の方なのです。こちらから連絡を取ることで彼の権威を横取りするようなことにならな

いだろうか。ひよっとしたら気分を害するかもしれない。「待った方がいいのではないか」とわたしは思いました。そのときジェンセン兄弟の言葉が頭に浮かんできました。

ジェンセン兄弟はこう言いました。「もし先輩同僚が皆さんと連絡を取ってくれなかったら、そのときには皆さんの方から先輩同僚と連絡を取り、ホームティーチングに出かける準備ができていますと伝えなければなりません。」もしそれでも先輩同僚がホームティーチングに行こうとしなかったら後の責任は彼のうえにありますと、ジェンセン兄弟は説明しました。わたしが行く努力を怠っている間は、わたしも先輩同僚と同罪なのです。

最終的にわたしは、自分の同僚を訪問し自己紹介をしようと決意しました。

次の日曜日、教会にいたときからわたしは次第に緊張し始めました。「わたしの同僚はどう思うだろうか。笑うだろうか。たぶん怒って追い返すだろう。」自分にはできないと感じましたが、最後までやり遂げよう、当たって砕けろだ、と心に決めていました。たとえ相手の反応が否定的なものであっても、少なくとも自分の役目は果たしたことになると思いました。

彼の家近づくと、わたしは自分を追い立てるようにして玄関に通じる道を歩きました。そして祈りをささげました。とても簡単で、直接的な祈りでした。「主よ、どうぞお助けください。」すると、一瞬恐れはなくなりました。足早に階段を上りドアをノックしました。家の中でパーティーをしているような音が聞こえていたのでだれかがわたしのノックにこたえて玄関にやって来ることは明白でした。再び恐れを感じましたが、もう逃げるには遅すぎました。

ドアが開き、出て来た女性に「何の用」と聞かれました。彼女の対応は丁寧だったかもしれないし、失礼だったかもしれませんが。こまやかだったかもしれないし、あるいはまたぶっきらぼうだったかもしれませんが。わたしはそれどころではなく、とにかく一生懸命自分がそこへ

「おはようございます。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」

「おはようございます。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」
「はい、元気です。お元気ですか？」



© 2001 ANA

やって来た理由を思い出そうとしていたのです。

「ジョンソン兄弟はいらっしゃいますか。」やっとのことで、おどおどしながら尋ねました。

「ちょっと待ってね。」笑い声が聞こえたように思いましたが、はっきりは分かりませんでした。一息する間もなく背の高い男性がドアの所に現れました。あまり愛想のいい感じの人ではありませんでした。

「何だい」と彼は言いました。

きっとわたしが恐がっているのに気づいたのでしよう。彼は少し表情を和らげてくれました。わたしは死に物狂いで一瞬心の中で最後の小さな祈りをささげるのがやっとなりました。

「ぼくの名前はジョンです。」わたしは自分としては恐がっていないような声で話し始めたつもりです。

「ぼくはあなたのホームティーチングの同僚なんです。ホームティーチングに行ける日を知りたいのですが。」

彼がおもしろがっていたのか驚いていたのか分かりません。ただ、わたしを玄関の外に放り出しはしませんでした。「出だし好調」とわたしは思いました。

彼はほほえんでこう言いました。「電話番号を教えてください。後で電話するから。」

わたしはとてもいい気分で帰宅しました。最善を尽くすことができたからです。たとえ彼が電話してこなくても、やるだけのことはやったと言えると思えました。帰宅してから両親に何が起こったか話しました。両親はその男性からわたしに電話がかかってくることを期待していなかったことでしょう。

夜遅くジョンソン兄弟、つまりわたしの同僚から電話がありました。

「火曜の夜7時にホームティーチングに行けるかな」と、彼。

「ええ、もちろんです」と、つかかりながらわたし。

「じゃあ、車で迎えに行くからね。またね」と言って彼は電話を切りました。

火曜日の夜、わたしたちはホームティーチングに行きました。後で分かったことですが、ジョンソン兄弟はあの日曜日わたしが帰った後で長老定員会会長に電話をして担当家族の名前を覚えてもらったということでした。それから彼はホームティーチングの約束を取ったのでした。

わたしたちは一定の手順を決めました。毎月第3日曜日にわたしが彼の家に立ち寄ります。そして彼がホームティーチングの約束を取りました。同僚だった2年間、担当家族を訪問し損なうことはめったにありませんでした。またわたしたちはほんとうに良い友人になりました。

同僚だった2年間、担当家族を訪問し損なうことはめったにありませんでした。またわたしたちはほんとうに良い友人になりました。



ジョンソン兄弟は教会にも何度か来てくれました。定員会会長が気絶するかどうか見てみたいんだよと言っていました。

わたしは二つの大切なことを学びました。まず第1に、アロン神権者はホームティーチングに肯定的な影響をもたらせるということ。第2に、あまり活発でない兄弟でもいちばん活発なホームティーチャーになれるということです。

ホームティーチャーとして、ジョンソン兄弟はわたしにたくさんのことを教えてくれました。□

ジョン・L・ハウター兄弟は、ユタ州サンディ中央ステーク、セゴリリーワードの会員です。

溶け込めなかったわたし

わたしたちはだれもがどのような場にも溶け込みたいと思っています。でもこれからお伝えするのは、自分がまったく場違いな場所にいると感じたことをうれしく思った経験です。

ジェニ・ウィルダソン

絵/スコット・スノー

わたしは最近、別の州にある大学のサッカーチームに入るかどうか決めるため、サッカー部の新生募集の集会に行きました。

滞在中、チームの女子選手たち数人が、入部予定者に大学生活を味わってもらおうと、わたしたちをあるパーティーに連れて行ってくれました。そのパーティーはそれまでわたしが慣れ親しんだものは違っていました。会場にいる全員がお酒を飲み、たばこを吸っていました。

「入部予定者は輪の真ん中に集まるように」と一人の男性が言い、一人一人にお酒の瓶を回して飲むように勧めました。

わたしが瓶に触れようとしないので、その人は言いました。「味見もしないのかい。」

「いいえ、けっこうです」とわたしは答えました。

それでも彼はしばらくの間、しつこく勧めました。

パーティーの間中、わたしはとても居心地が悪く、その場を離れたと思いました。ようやくパーティーは終わりました。

その翌日、総大会の様態を聞いていると、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の次の言葉が耳に入ってきました。「皆さんが義にかなった生活を送ることによって自分自身が変化していることに感謝してみてください。その変化ゆえ、皆さんは周りにいる人と溶け込みにくく、集団の中であって居心地が悪いと感じるのです。」(『義の力』『リアホナ』1999年1月号, 75) わたしは義にかなった生活を送ってきたために、パーティーで居心地の悪い思いをしたのです。そのことに感謝しています。パーティーでは場違いな所にいると思いましたが、そう思えたことに喜びを感じました。ほかにも感謝していることは、決してお酒は飲まないとずっと前に決心したことです。この決心は必要なときにわたしを助けてくれました。□

ジェニ・ウィルダソンはブリガム・ヤング大学第19ステーク、BYU第212ワードの会員です。



そのパーティーはそれまでわたしが慣れ親しんだものは違っていました。そこで場違いな所にいると感じたことをうれしく思っています。

ケニアのチュルに見られる 開拓者精神

E・テール・レバロン



ナイロビ南東部の高山地帯に住むチュルの人々の間で福音は勢いよく広まっています。



ケニアのチュルで、日曜日の集会（右）が始まる前に集会所を掃除する子どもたち（上）。

しばらく前に、わたしはブリガム・ヤング大学の教会歴史学教授として歴史の口述資料を収集するためにアフリカを訪れました。そしてケニアのチュルで忘れられない経験をしました。同地に入るのは容易ではありませんでした。ナイロビから240キロの旅は5時間かかりで、途中20キロの区間を進むのに1時間半かかる難所がありました。

わたしたちは日曜日に到着して、教会の集会が始まる1時間前に集会所へ行きました。集会所は長細い棒で組み立てた小屋で、奥行9メートル、間口4.5メートルほどの大きさでした。壁は棒と棒の間にはめ込まれた長い草で作られており、屋根はやしの枝と波形の鉄板でできていました。集会所の横には手書きで「末日聖徒チュル支部」と書かれた小さな看板が立っていました。入り口のドアを固定するために枝や葉の茂った灌木（かんぼく）を押し込んでありました。5歳から12歳までの20人くらいの子もたちがやって来たとき、わたしたちは驚きました。子どもたちは枝を束ねてほうき代わりにして、前回の集会以降、風で飛ばされて入り込んだ草のくずを掃き始めたのです。指示を出す人の姿はありませんでした。掃除が終わると、子どもたちは質素な木製のベンチを並べました。

間もなく家族が到着し始めました。賛美歌の伴奏は電池式のテープレコーダーから流れてきました。全員が歌いました。子どもたちは敬虔（けいけん）にしていました。日曜学校の成人クラスは集会所の中で開かれましたが、初等協会とほかのクラスは屋外の様々な所で行われていました。初等協会のおよそ30人の子どもたちを教えていたのは12歳の若い女性でした。子どもたちは熱心に参加していました。その日は断食証会（あかしかい）の日曜日でした。証と祈りはスワヒリ語（会員たちの母国語）や英語で行われていました。いずれの言語からも強い御霊（みたま）を感じる事ができました。



ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこのような情景について述べています。「教会の開拓者時代は現在もなお続いています。幌馬車（ほろ）や手車とともに終わったわけではありません。……新しい国に福音が紹介される度に、この業の道を切り開く開拓者たちがいます。』¹「アフリカではこの開拓者精神が生きており、そして旺盛（おうせい）です。1978年に「教会のすべてのふさわしい男性会員に神権が授けられる」²ことを指示する啓示（おうえい）が与えられて以来、アフリカの教会は数³と信仰において驚くべき発展を遂げてき

写真（F・テール・レバロン、特記されているものを除く）

ました。

ケニアの初期の改宗者

ケニアで教会が着実に根を張り始めたのは、教会がケニア政府から正式な認可を受ける20年近く前にさかのぼります。1970年代に、外国から移住して来た末日聖徒たちが家庭で開いていた教会の集会に大勢のケニア人が出席していました。ケニア人の最初の改宗者は、以前牧師をしていたエリザファン・オサカと妻のエピシバ、それに二人の子どもたちでした。彼らは1979年にバプテスマ



1992年7月、初等協会に集ったチュルの子どもたち。

を受けました。1980年に最初の宣教師としてファレル・マッギー長老とブランチ・マッギー姉妹が到着し、翌年、二つの支部から成るケニア・ナ

イロビ地方部が組織されました。1983年にはカスエ家族の二人の兄弟、ベンソンとニクソンがケニアから初めて専任宣教師として召されました。彼らはそれぞれカリフォルニア州ロサンゼルス伝道部とワシントンD. C. 伝道部で働きました。

しかし、ケニア政府は1980年代に教会を正式に承認する申請を却下して、1989年7月には末日聖徒の外国人宣教師全員に対して国外に退去するよう要求しました。このような難しい状況に追込まれたにもかかわらず、教会は発展し続けました。当時、地方部長を務めていたのはナイロビ出身で管理能力の高いジョセフ・サタチでした。彼はケニア人として初めて召された地方部長でした。

地元の会員たちの信仰と努力に負うところが大きいこの初期の発展のパターンは世界中で目にすることができます。トーマス・S・モンソン長老が第二副管長を務めていたときに語ったように、「福音が教えられて、教会員の数が増加している地域には、必ず開拓者時代があります。物静かな開拓者や雄弁な開拓者たちが主によって立てられて、堅固な基礎を築き、それから教会の組織が築かれるのです。そのように力強く発展する最初の段階は、たった一つの家族によって始められることが多いのです。」⁴

チュルのジュリアス・カスエとサビナ・カスエはケニアの初期の改宗者でした。二人はともにキリスト教を奉じる家庭で育ち、聖書を研究していました。1981年、ケニアの首都であるナイロビに住んでいたとき、同地で働いていた末日聖徒のデニス・チャイルドから教会を紹介されました。ジュリアスはしばしばモルモン書と宣教師のパフレットを読み、それらの内容についてチャイルド兄弟と話し合いました。ジュリアスは当時を思い出してこのように語っています。「このモルモン書を2度目に読んで、祈ったときでした。わたしは心の中に何か燃えるものを感じました。」⁵ジュリアスは真理について証を受けましたが、4年間待って1986年2月にバプテスマを受けました。妻のサビナがバプテスマを受けたのはその年の11月でした。カスエ兄弟姉妹はバプテスマを受けて間もなく、ナイロビを離れて、生まれ故郷であるチュルに戻って来ました。

教会の発展を阻止しようとする力

カスエ家がチュルに戻って間もなく、支部が組織されて、カスエ兄弟は支部長に召されました。彼の指導の下で教会は急速に発展しました。すると、宗教と地域社会の指導者の間に警戒感が広がりました。自分たちの宗派から教会に改宗する人たちが出始めたからでした。やがて、教会と教会を信じる人たちに対する批判が活発になってきました。

教会はケニア政府から正式の認可を受けていなかったため、9人以上の成人が教会の集会に出席することは違法行為とされていました。何件かの苦情が正式に提出されたため、カスエ支部長は逮捕されて、12時間に及ぶ拘留と尋問を受けました。カスエ支部長は自分が逮捕されたのは、デビッド・M・マルティの画策によるものだと

思いました。地域社会と宗教界の有力な指導者であったマルティ氏は、カスエ支部長の教会活動に強く反対していたからです。しかし、二人の反目が世間に知れ渡ったとき、マルティ氏は反目し合うのはもうやめようと決意しました。カスエ支部長ほどの聡明で立派な人が教会にどこまでついて行けるかに好奇心を抱いたマルティ氏は、教会に関して様々な質問を始めました。過去の反対活動を知っているカスエ支部長は、マルティ氏の意図を測りかねて、回答を渋っていました。しかし要請のあった出版物を送ることについては同意しました。それらの出版物自体が「回答を自ら明らかにする」ことを知っていたからです。

マルティ氏はモルモン書、教義と聖約、そのほか教会の書物を読み、心を動かされました。特に感動したのは『預言者ジョセフ・スミスの証』というパンフレットでした。彼は少なくとも40回このパンフレットを読みました。教会について調べていたあるとき、彼はある公開集會に出席しました。そこでは教会について様々な質問が持ち上がりました。マルティ氏は熱心に教会をかばい、出席していた人々に自分の証を述べました。彼が意見を述べ終わると、熱狂的な喝采がわき起こりました。最初の出会いから6か月後にカスエ支部長とマルティ氏は親しい友人になり、マルティ氏はバプテスマを受けて、支部の伝道主任に召されました。

正式な承認と伝道

カスエ支部長と姉妹、子どもたち、そしてそのほかの大勢の人々はケニアで教会が正式に承認を受けられるように

初期の改宗者ジュリアス・カスエとサビナ・カスエは1986年にバプテスマを受けました。カスエ兄弟はチュルにおける最初の支部長として働きました。

断食して祈りました。「わたしは家族で祈るときに教会が国から承認されるように祈るのを忘れることが時々ありました。すると子どもたちが、わたしに言うのです。『お父さん、教会の承認のことを祈らなかったよ。』子どもたちは強い信仰を持っていました」とカスエ支部長は当時のことを思い出していました。1991年2月25日、ついに正式な承認が下りました。多くの人が涙を流し、祈り、断食して感謝を表しました。

8か月後にケニアが福音を宣べ伝える地として奉獻されたとき、十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老はこのように述べました。「長年にわたって待ち焦がれていた伝道部が設立され、福音の宣べ伝えられる時が到来したことを感謝します。御業が揺るぎなく、着実に前進しますようお祈りします。』⁶

カスエ支部長は直ちに承認書類のコピーを手に入れると、チュル村の助役にそれを見せて教会が正式に活動できることを納得させました。聖徒たちは今や、何におびえることもなく集會に出席できるようになったのです。間もなく会員数は約40人に達しました。彼らは集會場所を必要としていましたが、伝道部さえ設立される前のことだったので、集會所はどこにも与えられませんでした。そこで会員たちはカスエ支部長の土地に小さな集會所を建てたのでした。

1991年7月に、ラリー・ブラウンを伝道部長として、ケニア・ナイロビ伝道部が設立されました。ブラウン部長と姉妹は間もなく、チュルを訪れ





チュルは水が少ないため、バプテスマの準備が一つの課題となっていました。貯水タンクをトラックに積んで運び、地元の兄弟たちは5時間かけて井戸からポンプで水をくみ上げ、貯水タンクまでの6キロの道のりを運んでいました。

ました。「チュルを訪れるには大変な旅をしなければなりませんでしたが、その価値がありました」とブラウン部長は言います。「集会所で聖餐会を開いたときのことを覚えています。その日は雨が降っていて、建物の中の地面がぬれていました。神権者は地面に古い大きな袋を敷いてその上にひざまずくと、聖餐を祝福しました。次に訪問したとき、たまたま聖餐のトレイをのぞいたら、中にはたった2枚のクラッカーがあるだけでした。……彼らは2枚のクラッカーを割りました。出席者は63人でした。とても全員に行き渡らないと思いました。けれどもそれで足りたのです。それは5,000人の群衆に食べ物を与えた奇跡を思い起こさせる出来事でした。』

バプテスマの水を運ぶ

チュル地域では教会に入ることを希望する人々が大勢いました。チュルは教会のあるほかの地域からあまりにも遠く離れているため、伝道部の指導者は地元の指導者

が育つまで会員の数を制限することになりました。毎週教会に集う人々の中に、ほかの村からやって来る二人の男性がいました。二人は自転車で片道2時間かけて出席していました。二人はほかの人たちとともに、バプテスマを受けさせてもらいたいと言いました。ブラウン部長は二人とその家族に限ってバプテスマを受けることを許可しました。しかし、アフリカの村は大規模な親戚で構成されていることが多いので、40人の改宗者が大喜びでバプテスマを受けるためにやって来ました。

チュルは水が少ないため、バプテスマの準備が一つの課題となっていました。チュルでバプテスマが行われるときには、ブラウン部長と一組の夫婦宣教師がバプテスマの衣服と、バプテスマフォント（として使う貯水タンク）をトラックに積んで、ナイロビからチュルまで骨の折れる旅をしなければなりませんでした。チュルでは兄弟たちが5時間かけて井戸からポンプで水をくみ上げて、6キロもある「岩だらけの道」を運ぶのでした。それから兄弟たちはタンクの中に入り、縁にひざまずいて、バプテスマを受ける人の全身を沈めることができるくらいまで水位を上げるのです。バプテスマが終わると新会員たちは証を述べました。彼らは福音に対する感謝の言葉を述べました。特に10年間教会に集っている一人の姉妹は深い感謝を述べました。そして、雨が降る漆黒の闇の中を感謝の賛美歌を歌いながら家に帰って行きました。⁸

ようやく、このような新会員たちが住む村チュルに支

部が組織されました。彼らには集会所が必要でした。村に通じる道路が整備されていなかったため、会員たちは丘の上にある建設用地の2キロ手前からすべての建築資材を素手で運ばなければなりませんでした。

バイロン・J・ギルバート長老は1992年に妻のエマとともに、8人のバプテスマ志願者を教え、面接するためにナイロビからチュルまで行ったときのことを報告しています。驚いたことにレッスンに出席したのは75人でした。集会中には、聖餐のトレイを3回補充しなければなりませんでした。⁹ チュルで一年以上伝道した宣教師のリンダ・リービット姉妹は、教会に入ることを希望する大勢の人々が宣教師のレッスンを受ける順番待ちリストに名前を書き込むのに3か月待ってもらわなければならなかったと話しています。この3か月の間、全員が教会じゅうふんに出席し、ほとんどの人が什分の一の律法を守り、知恵の言葉に従い、そして断食しました。¹⁰

カスエ支部長をはじめとする地元の教会指導者がもっと学びたいと切望していたことがチュルの教会を強めるために大きく貢献しました。ブラウン部長はナイロビで開かれる指導者会にすべての神権指導者を招いたとき、チュルから出席する人はいないだろうと思っていました。あまりにも遠く、旅費もかさむからでした。しかし、指導者会が開かれる日の朝早く、チュルから11人の兄弟たちが到着しました。彼らは真夜中に

出発する列車に乗るために駅まで20キロ歩き、一晩中列車に乗ってやって来たのでした。彼らはその日指導者会に出席しました。その中には通訳を必要とする兄弟たちもいました。その晩は教会員の家に泊まり、そして翌日、集会に出席できた特権に心からの感謝を表しながらチュルへ戻って行きました。

収穫と改宗者

これがチュルにおける教会の歴史です。会員たちは豊かな祝福を受けています。わたしは1992年7月の旅を終えようとしていたときに、そのような祝福の兆しを目にしました。出発の準備をしていると、カスエ支部長と一緒にナイロビまで行っていかと尋ねました。彼はブラウン部長と話す必要があると言いました。しかし、何か心配事があるようなそぶりはまったく見られませんでした。翌日、ブラウン部長からチュル地域はひどい干ばつに見舞われていて、飢餓状態に置かれている人もいと聞かされました。わたしはショックを受けました。会員たちはだれ一人として、直接話したときにも日曜日の証会のときにも、不平を漏らしませんでしたし、わたしから助けを得ようともしていなかったからです。

ブラウン部長はすぐに対応を始めました。地域会長会の許可を得て、チュルで苦しんでいる人々のためにとうもろこし、米、豆類をチュルに送り届ける手配をしたのでした。夫婦宣教師のテッド・マクニール長老とジャクリン・マクニール姉妹はチュルに向かいました。大型のトラックだったことと積んだ荷物が重かったため、大変な旅でした。道路に転がっている巨大な溶岩石をどけるために、8人の姉妹たちが懸命に働きました。そのようにしてトラックを前進させたのでした。マクニール姉妹は当時を思い出してこう話しています。「物をもってあれほど喜んで見ている人たちを見たことがある人はまずいでしょうね。これで命が助かることを彼らは知っていたのです。」

カスエ支部長はすべての家族を訪問して状況を調べました。そして夜、カスエ姉妹とともにポリッジ（訳注—オートミールなどを水やミルクでどろどろに煮たかゆ）を作って、衰弱してベッドから起き上がれない多くの人々のもとに届けました。マクニール姉妹はこのように述べています。「とても強い御霊の力を感じました。カスエ支部長夫妻が働く姿を見たわたしたちは、ただた



デビッド・M・マルティはチュルの支部に対して公然と反対していました。しかし、聖文とパンフレット『預言者ジョセフ・スミスの証』を読んで、心を動かされたから、その反対活動を中止しました。彼はあかし証を得て、バプテスマを受け、教会の指導者になりました。

だ涙を流すばかりでした。」

教会は将来の災害に備えて、チュルの教会所有地に干ばつに強い作物を栽培するプロジェクトを始めました。このプロジェクトは神権指導者が管理しました。アイダホ出身の農学者であり、チュル地方部長会の第一副部長を務めたジョエル・K・ランサムもこのプロジェクトに参加しました。プロジェクトに協力した人々は土地と種を与えられ、自分の家庭菜園で栽培することができました。2年近く雨が降りませんでした。40人の教会員と60人の教会員でない人々は1992年10月21日に種をまきました。そして、雨を求めて特別に断食し、教会制作の映



チュルの人々は教会が提供した井戸に感謝しています。

画「天の窓」を見ました。種をまいてから1週間もたたないうちに、雨が降りました。作物の生長とともに、人々の信仰もふくらみました。こうして彼らは作物と改宗者を豊かに収穫したのです。

長年にわたってチュルで植えられ養われたもう一つの種である福音の種は力強く生長して、引き続き実りをもたらしています。例えば、1990年代半ばにケニア政府が外国人専任宣教師へのビザの発給を停止したとき、チュルの青年たちは開いた穴を埋めました。1998年、デビッド・バウチャーはケニア・ナイロビ伝道部の部長を解任されたときに、チュル支部はケニア全体の教会員の15パーセントを占めているにすぎないにもかかわらず、ケニアで働くケニア人宣教師の半数以上を送り出していると語りました。¹¹

ヒンクレー大管長が語った次の賛辞はチュルの会員たちに向けられていたのかもしれませんが。「改宗して教会に加わった人々の中に……開拓者を見つけることができます。一人一人が苦難に立ち向かっています。彼らには犠牲が求められます。迫害されることもあります。けれどもこれらの代償を彼らは喜んで支払っています。1世紀以上前に大平原を横断した偉大な開拓者たちが支払ったのと同じように、彼らは実際に代価を支払っているのです。」¹²

E・デール・レバロンはユタ州オレム・ティンブビューステーク、ティンブビュー第2ワードの会員です。

注

1. ゲリー・アバントとジョン・H・ハート, "Many Are Still Blazing Gospel Trails," *Church News*, 1993年7月24日付, 6で引用。
2. 教義と聖約, 公式の宣言二。
3. 1853年から1978年まで(125年)の間にアフリカの教会員は7,712人となり、年間平均61.7人のバプテスマがあった。その間、南アフリカに一つのステークと一つの伝道部が組織された。1978年から1998年までの間に教会員は11万2,344人増加し、年間平均5,617人のバプテスマがあり、サハラ砂漠以南のアフリカ48か国で25のステークと12の伝道部に12万056人の会員がいる。アフリカにおける過去20年間の年間会員増加率は、それ以前の年間平均増加率と比較して91倍となっている。
4. *Church News*, 1993年7月24日付, 6で引用。
5. 1992年7月5日, ケニア, チュルにおいて行われたジュリアス・カウリ・カスエとのインタビュー。
6. 1991年10月24日, ケニア, ナイロビでジェームズ・E・ファウスト長老によってささげられた奉獻の祈り。コピーを著者が所有。
7. 1992年7月8日, ケニア, ナイロビで行われたラリー・ブラウン, アリス・ブラウンとのインタビュー。
8. 1993年6月に行われたパイロン・J・ギルバート, エマ・レイ・ギルバートとのインタビュー。
9. 1993年6月に行われたパイロン・J・ギルバート, エマ・レイ・ギルバートとのインタビュー。
10. 宣教師として夫とともにケニアで伝道したリンド・リーブットの個人の歴史。コピーを著者が所有。
11. 1999年8月24日に行われたデビット・バウチャーとの電話インタビュー。
12. *Church News*, 1993年7月24日付, 6で引用。

みたま 御霊の力によって教える

ジル・パルシファー・ジョーンズ
フォトイラストレーション/スティーブ・バンダーソン

息子の一人が高校生のとき、家族からどんどん離れてしまいそうなことがありました。権威あるものにはことごとく反発しました。教会には義務的に出席していたものの、福音への関心はまったくありませんでした。

高校を卒業すると、彼は伝道のためではなく、車を買って、大学に行く目的でお金を稼ぐ目標を立てました。ところがある日曜日、^{せいさん}聖餐会が終わるとすぐに帰ってしまうことの多かった息子が日曜学校に出席したのです。その日のレッスンは伝道活動に関するテーマでした。

後になって息子がわたしたちに打ち明けてくれたのですが、あの日、彼はそれまで感じたことのないほど強い聖霊の働きかけを受けたそうです。日曜学校が終わると彼はすぐに監督のところに行き、伝道に出

宣教師の送別会で、
息子は日曜学校の
教師からの手紙を
読み上げました。

たいと申し出ました。それから1年後、伝道を目前に控えた送別会で、息子は日曜学校の教師のシェリー・パーセル姉妹からの手紙を読み上げました。それは彼が伝道に出る決心をしたことを知った姉妹が書き送ってくれたものでした。

その手紙の中でパーセル姉妹は、あの日のレッスンを準備する際、とても悩んでいた様子についてつぶっていました。レッスンの範囲は教義と聖約の第71章から第75章と第77章でした。土曜日の夜パーセル姉妹は悩んだ末、第77章を採り上げ、黙示録に収められている数々の預言に的を絞ることにしました。また、このように記していました。「その晩、わたしはあまり眠れませんでした。夜中に何度も目が覚めて、『わたしは何を教えればよいのだろう。生徒は今何を学ぶ必要があるだろうか』と苦悶しました。」

日曜日の朝、パーセル姉妹がもう一度レッスンの進め方を見直しているとき、ふと伝道に関するレッスンをしようと思いついたのだそうです。「わたしは、主がクラスのだれかに伝えたいと願っておられることがあると強く感じました。レッスンの中で、御霊をととても強く感じていました。そして、メッセージが生徒に伝わるのを感じました。わたしは自分が話したことすべてを覚えてはいませんが、準備した内容とは異なった事柄を話している自分に気がついたのを今でも覚えています。そのとき、御霊がわたしに代わって伝えていたことを今心から証することができます。」姉妹は手紙にそう記していました。

息子は伝道の準備をしている最中に、兄に自分の証を伝えました。そして二人はほぼ同時期に伝道に出て、一人はペルーで、もう一人はメキシコで福音を^の宣べ伝えました。

わたしは、シェリー・パーセル姉妹に心から感謝しています。彼女が御霊の力を受けて教えてくださったことによって、わたしたち家族は計り知れない祝福を受けることができたのです。□

ジル・パルシファー・ジョーンズは、インディアナ州マンシーステーク、マンシー第1ワードの会員です。





「あらゆる良い機会に積極的に取り組んでください」

新しい世紀と新しい千年を迎えました。このようなとき、時の移り変わりに思いをはせることは珍しいことではありません。多くの人々にとって過去は、後悔と希望が不安定に入り交じる中で、未来へと移り変わっていくように思えるのです。

♥ ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように語っています。「わたしは将来のことについてはあまり心配していません。また、過去のことにしてもさほど憂慮してはいません。過去はすでに過ぎ去ったものであり、それを変えることはできません。……将来について言えば、期待を抱



けるものの、必ずしも多くの働きかけができるわけでもありません。皆さんが対処しなければならないのは現在の事柄です。ですから、なすべきことを行うために、自分に与えられるあらゆる良い機会に積極的に取り組んでください。」(本誌8ページ参照) ♥ 以下に掲載される人々の経験には、この勧告に含まれている知恵が映し出されています。これらの教会員は、勇気と信仰をもって現在の機会をつかみ、活用することで、過去の弱点や過ちから良いものを得、未来の可能性の扉を開こうと努めた結果、「なすべきこと」を行うことができました。

わたしの恩師

ホアキン・フェノイヤ・バタイエ

わたしが初めてフリオ・マルチネスに会ったのは、24歳のときでした。わたしは当時、人生の目的が何であるか、そしてなぜわたしの心に空虚な気持ちを感じるのかを理解できる

しばらくして、フリオが少しずつ変わり始めたことに気づきました。目には新たな光がさし、もっと親切になり、批判的な態度が弱まり、謙遜けんそんさが増しました。

よう助けてくれる人と出会うことに強い関心がありました。87歳のフリオは、まさにそのような人でした。彼は肉体系、精神面で並々ならぬ健全さを備えていました。自然を愛し、いつも明るく朗らかに振る舞う人でした。わたしたちは夏の午後、ともに語り合いながら多くの時間を過ごしました。わたしは次第にフリオと彼の考え方を尊敬するようになりました。自らの教えを実

践するこの哲学者は、わたしの恩師となったのです。

わたしたちが出会ってから2年半たったある日、フリオはわたしに、末日聖徒イエス・キリスト教会のバプテスマを受けたことを告げました。わたしは愕然がくぜんとしました。彼ほど知恵と経験の豊かな人が、どうしてそのような選択をしたのでしょうか。しかし、わたしは彼を尊敬していたので、彼の選択を尊重することにしました。その後も互いに訪問を重ねましたが、フリオが教会について話し始めると、わたしは

すぐに話題を変えました。

しばらくして、フリオが少しずつ変わり始めたことに気づきました。目には新たな光がさし、もっと親切になり、批判的な態度が弱まり、謙遜けんそんさが増しました。わたしはなぜこのような変化が起こっているか理解できず、これまで築き上げてきた友情が失われることを恐れました。それでも、依然として、教会について詳しく聞くようにというフリオの誘いには応じませんでした。

こうして、わたしは主からの呼びかけに耳をふさいでいました。わたしは、主が一人一人に呼びかけられ、時々ほかの人々を介して呼びかけられるものの、その声はわたしたちが聞く耳を持ち、心を開いたときのみ聞くことができると思っています。主は何度もわたしをお呼びになりましたが、わたしの心は閉ざされていました。

ところが、1998年8月20日、わたしはフリオの強い勧めに応じ、主の宣教師であるマルティネス長老、ポイル長老、ウィンワード長老と会いました。そのとき初めて、自分を呼び続けてこられた声みたまが分かりました。御霊みたまが力強く証あかしするのを感じ、心は和らげられ、謙遜な思いになりました。涙なみだが頬を伝いながら、わたしは何度もこのように自問しました。どうして救い主は、これほど深くわたしたちを愛することがおできになるのだろうか。主はどうしてわたしたちのために、そしてわたしのためにそのような業を行おうと地上へおいでになったのだろうか。

その9日後、わたしはバプテスマを受けました。友人のフリオのおかげで、今はイエス・キリストがわたしたちに抱いておられる愛と主の教会にある兄弟愛を知っています。フリオは、わた

しにとって祖父のような人です。そして、主の恵みのおかげで主の永遠の真理を見いだすことができたことを知り、喜びにあふれる思いです。

ホアキン・フェノイヤ・バタイエはスペイン・バレンシア地方部ガンディア支部の会員です。

隠された本 ルース・ドーセット

1973年の夏、わたしは、家族歴史の記録を探求するためにヨーロッパへ行こうという、説明のつかない気持ちに促され、それに従うことになりました。このようにして、わたしと二人の孫娘は、ドイツ、カッペルンの古い建物の中でいろいろな記録を書き写すことになったのです。

わたしは限られた時間を、とりわけ祖父であるトムセン側の先祖について調べることに充てた方がよいという靈感を受けました。わたしたちが調べ物をしていく建物には、1764年までさかのぼるカッペルンの社会一般の記録、ならびに宗教上の記録がありました。わたしたちはドイツ語を話せませんでしたが、幸いなことに、英語を話せる館長が、記録解読に必要なだけのドイツ語を教えてくださいました。

わたしと孫娘たちは、孫娘たちが旅行計画どおりイギリスへ向かうまで、必要な情報を集めようと全力を尽くしました。わたし自身はまだそこを離れることはできなと感じました。祖父の家系を調べるという勧めがほんとうの靈感であるように思えてきたからです。

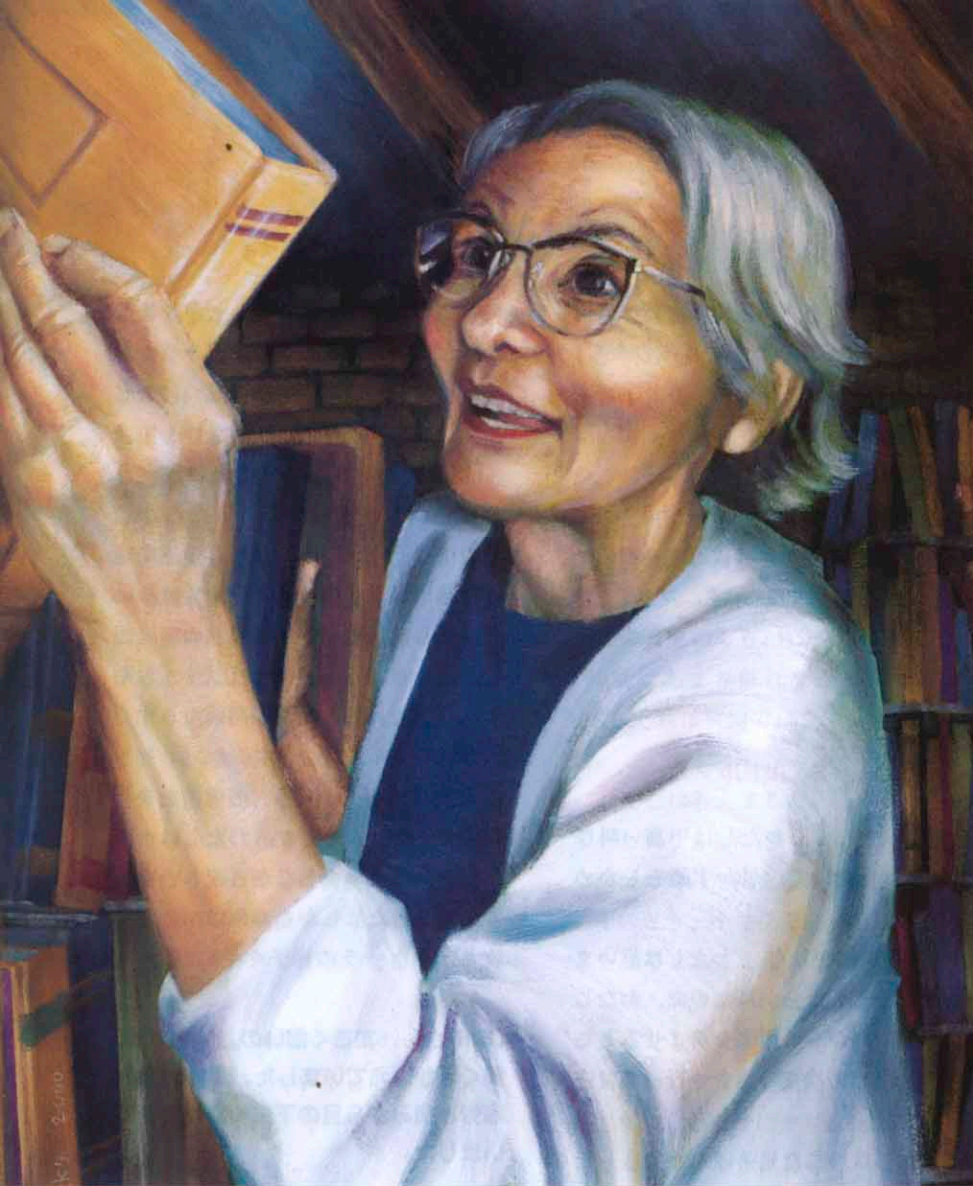
それから間もなく、カッペルン記録保管所の職員はそれらの記録がわたしにとってどれほど大切なものであるか

を察しました。毎朝開館時にはわたしが扉の前で待ち、昼食のために作業を中断することはありませんでした。職員の人たちは親切に対応してくれました。昼食時の閉館の際も館内で調べ続けることを許可してくれたうえ、毎朝の開館時間を1時間早めることまで提案してくれました。時間が限られていたわたしは、言葉に尽くせぬ感謝でいっぱいになりました。

1764年までさかのぼり、出生、結婚、埋葬の記録を調べた後、次にどこを探すべきか迷いました。1764年以前の記録がどこかにあるはずだと思いましたが、どこか分かりませんでした。その瞬間、「まだ、探していない」と言われたような強い印象を受けました。幾分驚きつつも、建物の地下保管室へ行き、こうつぶやきました。「探していないのはどこだろう。」

すると大きな本が数冊、いちばん上の棚にあるのが目に留まりました。わたしはこう思いました。「長年だれも見っていないあの本の中に記録があるに違いない。」本を取るには、いちばん下の棚に足をかけなければなりません。分厚い本を1冊取ろうと右手を伸ばしながら、体を支えるために左手を棚の端の入り込んだところに置きました。すると、左手が何かに触れました。いちばん高い棚から分厚い本を取ってから、左手が何に触れたのか見てみました。先ほどの本よりもずっと小さな本でした。表紙の色は、棚の色と同じ地味な褐色でした。本を開くと、古いゴシック体の文字で書かれています。これは何でしょうか。

わたしは、より近代的な文字が使われている後ろのページまでめくりました。そこにはある両親のもとに出生し



**いちばん高い棚から分厚い本を取って
から、左手が何に触れたのか見てみま
した先ほどの本よりもずっと小さな本
でした。**

た子どもの名前があり、その両親は、
わたしがすでに集めた人々の記録に含
まれていました。それまで集めた記録
は1765年までさかのぼるのが限界でし
たが、今わたしが見つけたのは、1763
年、その同じ両親のもとに生まれた、
さらに年長の子どもの記録なのでした。

期待を抱いてよいものかどうか迷い
ましたが、職員が昼食から戻るとすぐ、
その本を記録保管係のところへ持って
行きました。彼はわたしの説明を聞いた
後、その本はわたしの思ったとおり、

1600年代半ばまでさかのぼる、カッ
ペルンで執行された洗礼の記録であると
教えてくれました。彼は次のように言
いました。「これはカッペルンの記録
ですが、今までここで見つけたことは
ありませんでした。」

わたしは職員にお願いして、本を複
写してもらいました。わたしと家族は、
受け取った101枚の記録から数多くの
人名を探求し、後日神殿に提出しまし
た。その本の紙面の複写とマイクロフ
ィルムは、現在、教会家族歴史図書館
で利用できます。

主が先祖を心から探求する人々に助
けを与えられることを、感謝を込めて
証あかしします。この経験は、次の聖句に込
められている知恵を確信させてくれま

した。「心をつくして主に信頼せよ、
自分の知識にたよってはならない。す
べての道で主を認めよ、そうすれば、
主はあなたの道をまっすぐにされる。」
(箴言3：5-6)

ルース・ドーセットは、ユタ州セント
ジョージ・ブルミングトンヒルズステ
ーク、ブルミングトンヒルズ第2ワード
の会員です。

恐れることはない

ベティナ・ペアトリス・サルパティ
エラ・デ・サンチェス

わたしは、生活における標準聖典
の大切さについて、せいさん聖餐会で話
すよう頼まれました。少々内向的で、
人前に出ると緊張するわたしでした
が、その割り当てを喜んで受け入れま
した。聖文に対して強い証あかしがあるので、
このテーマについて話せることをうれ
しく思いました。

これまで長い間、わたしは預言者の
勧告に従って、毎日聖文を研究してき
ました。聖文を研究するとき、大きな
喜びを感じます。わたしが標準聖典の
中で読む言葉は神の言葉であることを
知っています。

また、個人の日記もつけています。
これは宣教師から教わったことでは
ありますが、日記をつけることも大切なこと
であると考えています。わたしは毎日の
経験や進歩について記録します。話の
割り当てを受けたとき、日記の中から
話の題材として活用できる事柄が見つ
かるかもしれないと分かり、心が落ち
着きました。

あまりにも緊張したので、その1週間
は一生懸命に話を準備し、導きを求め
て祈りました。わたしの言葉が兄弟姉

妹の心に響いてほしいと思いました。

ついに日曜日を迎え、わたしは少し震えながら説教壇に立ちました。話をしている間、会員たちが真剣に耳を傾けてくれていることに気づきました。すると、今まで経験したことのないほど落ち着いて、心地よく話すことができました。すばらしい御霊がわたしの心を満たし、まるで胸の内を燃やされているかのようでした（教義と聖約9：8参照）。聖餐会で話す機会はすばらしい経験となりました。天の御父が御霊によってわたしを祝福してくださいました。

この経験について後で考えたときに、御霊の祝福があったのは、わたしが熱心に話を準備し、主の導きを求めたからかもしれないことに気づきました。わたしは備えていたので、恐れることはなかったのです（教義と聖約38：30参照）。

さらに気付いたのは、もし話の割り

当てのような小さな事柄のために自信をもって備えることができるのなら、さらに大きな事柄についても、主が支えてくださるとはっきり知って備えられるということです。

ベティーナ・ベアトリス・サルバティエラ・デ・サンチェスは、アルゼンチン・ゴドイクルスステーキ、ゴドイクルス中央ワードの会員です。

主に後を託す

ロンディー・S・ルドルフ

「お母さん！」わたしは甲高い叫び声を聞いて、思わず顔をしかめました。

「今度は何かしら。」わたしは思いました。子どもたちが寝たので、わたしは夕べのいつもの用事を済ませるところでした。夫は夜の集会へ行って留守でした。

わたしは、また兄弟げんかでもした

のだろうと覚悟して2階へ上がりました。ところが、末っ子のミケーラが目を赤くして泣いているのを見つけました。「お母さん、耳が痛いよ。」

「困ったわ。こういうことは、どうしていつも夜中に起こるのだろう。」心の中でそう思いました。耳の感染症は救急治療を受けるほど深刻ではないと判断して、知っている限りの家庭医学を用い、娘を寝かせました。「おやすみなさい。朝、病院が開いたらすぐにお医者さんに電話をするわ。」

1階に戻ってから、心配のあまり集中できませんでした。わたしは台所へ行き、考え事をしながら流し台をふき始めました。しかし、急にふき金を放り、ミケーラの様子を見に2階へ向

「お母さん、すごく痛いの。」いつもの笑くぼが消えていました。顔は青ざめ、疲労と痛みから目の下にくまができていました。



かいました。ミケーラが寝ていたら起こさないよう、そっと上がりました。しかし、階段を半分上ったところで立ち止まりました。階段の上の開いた扉の向こうから、すすり泣く声が聞こえるのです。

もう耐え切れない思いでした。自分の子どもが苦しんでいるにもかかわらず、助けにもなれずただ黙って見ていることはできません。わたしは階段に座り込み、頬に涙が流れました。主に祈り、願い求めました。震えながら、自分は娘を助けるためにあらゆる手を尽くし、主に後を託すと伝えました。それから、わたしは何度か深呼吸をした後、残りの階段を上り、娘のベッドの上に座り、汗で湿った髪をなでました。

「お母さん、すごく痛い。」いつもの笑くぼが消えていました。顔は青ざめ、疲労と痛みから目の下にくまができていました。

わたしは夫の帰りまで待てないと思いました。心配性で、過保護な、過剰に反応する母親だと思われてもかまわないと決心しました。「ホームティーチャーに電話するわ。いいわね。」

ミケーラはうなずきました。

幾分不安な気持ちで電話をかけました。ホームティーチャーにミケーラを祝福してもらえるか尋ねると、彼は「もちろん」と答えました。その後間もなく、まるで深夜のドライブが趣味であるかのような笑顔でホームティーチャーが到着しました。

祝福が施されている間、わたしの沈んでいた心が希望で軽くなっていくのを感じました。帰宅するホームティーチャーにお礼を述べて、ミケーラをもう一度寝かせました。ミケーラが寝入

るまで数分とかかりませんでした。

翌朝、ミケーラの調子があまりにも良さそうだったので、小児科医に電話するのをやめようかと一瞬考えました。しかし、わたしはあらゆる手を尽くすと主に約束していました。

その後、わたしは医師を注意深く観察しました。彼女は器具を使ってミケーラの耳をのぞき、こう言いました。「昨晚はあまり眠れなかったでしょう。」それは質問ではなく、断言でした。

わたしは答えました。「一晩中ぐっすりと眠りました。」

医師の驚いた顔を忘れられません。

そのとき、小さな奇跡が起こったことを知りました。海が分けられたり、らい病人が清められたり、死人がよみがえったりしたわけでもありません。一人の幼い少女が一晩静かに、痛みを感じずに寝ただけにすぎません。

しかし、わたしにとって、それで十分でした。

ロンディー・S・ルドルフは、コロラド州ボルダー、ルイスビル第1ワードの会員です。

結婚指輪を磨く

葛 徳光

わたしと婚約者が結婚の準備をしていたとき、二人の結びつきを象徴するような指輪を探し始めました。見に行ったら指輪はどれもしっくりときませんでした。そんなとき、わたしたちはCTRの指輪にしよう決めました。この指輪なら、いつも正しいことを選び、義の中で家族を養い育ていくことを思い起こさせてくれると確信しました。

結婚する前のある日、わたしは自分

の指輪が輝きを失っていることに気づきました。数人にどうすればよいか尋ねたところ、歯磨き粉、良質の綿、獣脂などで磨くことを勧められました。すべてやってみましたが、効果はありませんでした。輝きを失ったことがとても気になりましたが、とうとうあきらめました。

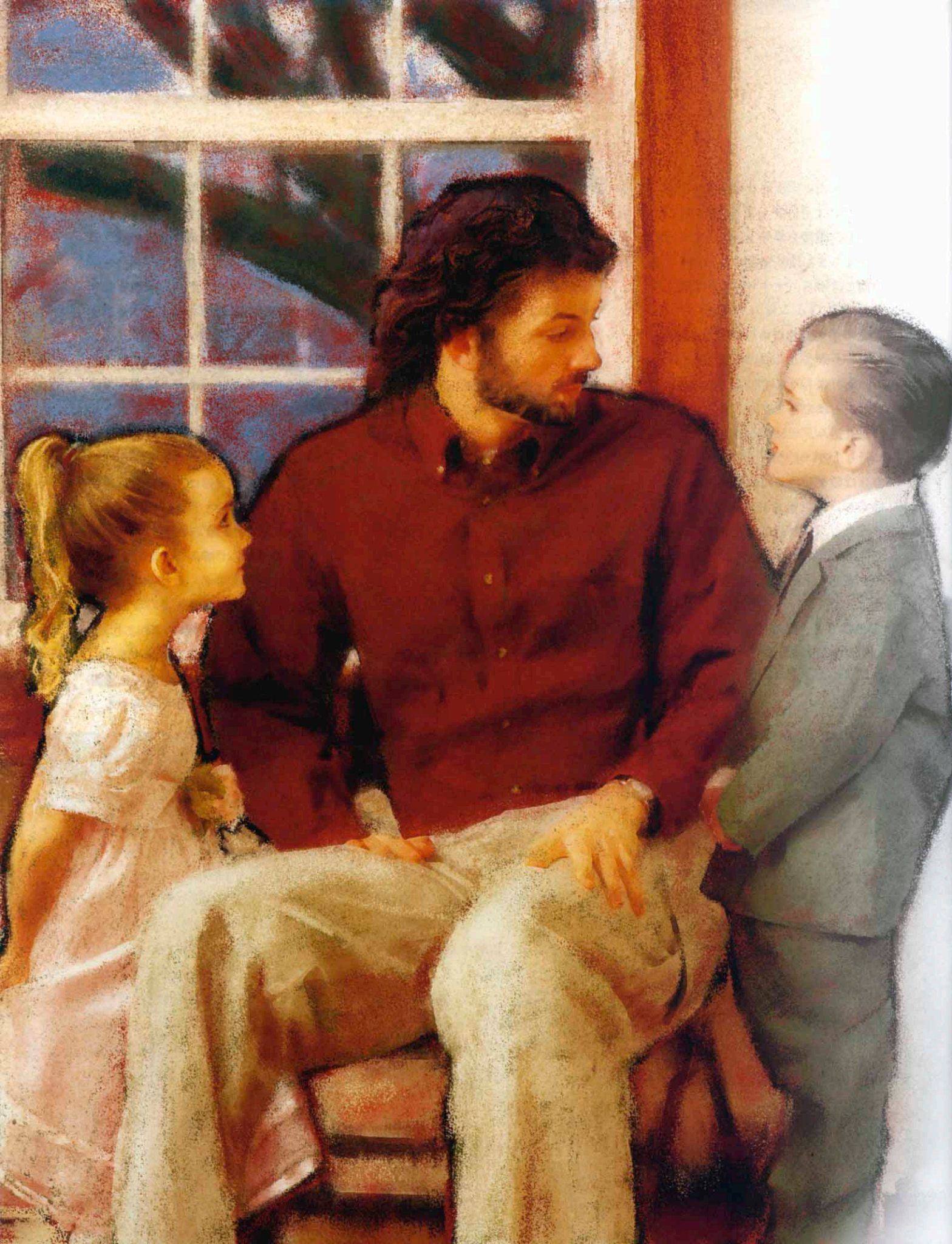
結婚した後は、生活がますます複雑になっていくのを感じました。わたしは仕事と教会の召しに忙殺され、家庭のことはほとんど妻が一人で行っている状態でした。次第に、喜びが家庭の中から消えていきました。わたしたちは、どうしてこのように変わってしまったのか、そして解決するにはどうすればよいか分からず、導きを求めて祈りました。

しばらくして、長男が生まれました。すると妻は息子の世話にかかりきりになりました。わたしは妻の働きに感謝し、おむつの洗濯を自分で担当することに決めました。

おむつを洗い始めてから数週間後、わたしは結婚指輪が輝きを取り戻すようになったのに気づき、驚きました。そして、毎日おむつを洗うことにより、勧められたいかなる研磨法でも果たせなかった事柄をなし得たと知りました。

また、自分が家庭の外での務めに忙殺されていたとき、夫および父親としての最も大切な義務を果たすのをおろそかにしていたことに気づきました。指輪と同じように、結婚生活の輝きも失ってしまいました。しかし、指輪に示されたように、わたしが正しい選択をし、家族を最優先するようになると、指輪も結婚生活も再び輝き始めたのです。

葛 徳光は、台湾花蓮地方部、吉安支部の会員です。



訪問者

わたしのクラスを訪れたマイクは、仰天するような質問に直面しました。

ケン・メレル

伝道に出る準備を進めていたころ、監督はわたしを光クラスの教師に召しました。このとても単純な召しを通してあの子たちに奉仕して初めて、自分以上にほかの人を愛するということについて学びました。あの7人の子らをじっと着席させて簡単なレッスンに耳を傾けさせる方法を、わたしは時間をかけて忍耐強く学びました。

ある日わたしは*マイクを教会に誘い、自分の教えているクラスを見に来てほしいと言いました。マイクはわたしと同じ年ですが、12歳になるころにはまったく教会に来なくなっていました。その後わたしは執事定員会会長、教師定員会会長、祭司定員会会長である監督の補佐として奉仕していましたが、その間も二人はずっと友人でした。フェロウシップについての話し合いではよくマイクのことを話題になりました。わたしはマイクのためによく祈っていました。それほど頻繁ではありませんでしたが、マイクはわたしの誘いに応じて、活動に参加してくれました。マイクはいつも意外なときにやって来ました。それで、わたしは常に誘い続けるようにしました。

マイクをいつわたしの初等協会のクラスに来るように誘ったのか思い出せません。けれど、ある日マイクは姿を現したのです。そのとき、彼は長い黒髪を垂らし、あごひげを蓄えていました。

「みんな、先生の友達のマイクを紹介します。」クラスの始めにわたしはこのように言いました。「マイクは今日、このクラスを訪問してくれたんですよ。」

マイクはわたしと並んで前に座りました。わたしたちを囲んで半円形に並んで座った子どもたちの目は、マイクに釘付けでした。子どもたちはいつもよりずっと静かでした。レッスンが始まって5、6分たったとき、一人の小さい男の子がイスから立ち上がって、わたしたちのいる方へ来て、わたしの友人の真正面に立ちました。少し間を置いてから、その男の子はマイクのひざによじ登りました。レッスンを続けながらわたしは二人の様子を見ていました。

男の子はマイクの顔をじっと見詰めました。マイクは落ち着かない様子でしたが、レッスンのじゃまをすることも、男の子を追いかけることもしませんでした。ほかの子どもたちも、二人をしばらく見詰めていました。

すると、一人の女の子がイスから下りて、マイクの方に近づいて行きました。マイクがどのように対応するかとても興味深かったので、わたしはその二人の子どもたちをそのままにしておきました。女の子はマイクのひざの上に両手をつけて、彼の顔をじっとのぞき込みました。

そのときです。マイクのひざに乗っていた男の子が、両手を伸ばして、マイクの顔を自分の方に向けました。わたしはレッスンを中断して次に何が起こるのかとじっと見守りました。

子どもらしい無邪気さで、男の子はマイクに質問しました。「イエス様なの？」

マイクはとても驚いた顔をしていました。子どもたちの顔に目をやると、みんなが同じことを聞きたいと思っていたことが、顔つきからうかがえました。

マイクはわたしを見ました。まるで「助けてくれよ。どう答えたらいんだい」とでも言たげでした。

わたしは一步前を出て、「いや、マイクはイエス様じゃないんだよ。でもね、マイクはイエス様の弟なんだよ」と言いました。

マイクは衝撃を受けた様子でわたしを見ました。

すると、マイクのひざの上の男の子はためらいもせずに両腕をマイクの首に回しました。「ああ、やっぱりそうか。」男の子はそう言ってマイクを抱き締めました。

ほかの子どもたちもみんなにっこり笑って、自分たちの疑問が解決したというふうにな得してうなずきました。この光クラスの小さな男の子の愛を感じたマイクは、まばたきをして涙をこらえていました。レッスンは続きましたが、その日最も大切なレッスンを行ったのは、3歳の男の子でした。

マイクは1年以上かけて専任宣教師として奉仕するための準備を整えました。わたしの伝道も残り数か月を残すのみとなったころ、マイクが伝道に出たという知らせを受け心は躍りました。あの光クラスの子らのことを思うとき、マタイによる福音書第18章5節が心に浮かびます。「また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」□

ケン・メレルはユタ州オレム・レークビューステーク、レークビュー第6ワードの会員です。

*名前は変えてあります。

『リアホナ』 2001年11月号 の活用法

レッスンと話し合いのアイデア

■「魔の運び屋——ボルノグラフィー」2ページ——トーマス・S・モンソン副管長が述べた、ボルノグラフィーと戦うための作戦の3つのステップについて話し合います。この邪悪をなくすのを助けるためにあなたが具体的にできることは何ですか。

■「名誉の帰還」10ページ——ロバート・D・ヘイルズ長老は、パイロットが無事に帰還するために使用する幾つかの計器について語っています。これらの計器と、わたしたちが無事に天の家に帰還できるように促してくださる聖霊からの助けとを比較してください。

■「青少年への敬意」25ページ——なぜブリガム・ヤングはリトレンチメント協会を作ったのでしょうか。今日の世の中に存在する影響力の中で、わたしたちが避けるべきものにはどのようなものがありますか。

■「先生がいいって言った？」F14ページ——従順になれば、必ず肉体的に救われるというわけではありませんが、霊的な救いを得させ、永遠の命へ導いてくれます。わたしたちが霊的な安全を得られるように、主が与えられた幾つかの戒めについて話し合います。

フォトイラストレーション/クレーグ・ダイヤモンド

預言者に従う

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は青少年に、感謝する人、知性を備えた人、清い人、誠実な人、謙遜な人、よく祈る人になるように勧めました（「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41参照）。大管長の勧告はあなたにとってどのような助けとなりましたか。あなたの経験とそれまつわる話をFollowing the Prophet, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA またはEメールでCUR-Liahona-IMag@ldschurch.orgまでお送りください。必ず氏名、年齢、住所、電話番号、ステーク/地方部、ワード/支部を明記してください。

今月号に採り上げられている項目

活発化	28
教会歴史	25, F2
改宗	32, 40
勇氣	28, 40
聖約	10, 16
信仰	32
家族歴史	40
家庭の夕べ	48
家族関係	40, F4
癒し	40
聖霊	39, F14
ホームティーチング	6, 28
名誉	10
イエス・キリスト	46, F8, F10
伝道活動	39
音楽	24
新約聖書ものがたり	F8, F10
従順	7, 10, F7, F12, F14
儀式	10, 16
開拓者	32
ボルノグラフィー	2
初等協会	F12
預言者	8, 25, F7, F12
清さ	2, 7
聖文研究	F2
標準	31
教える	39, 46, 48
神殿・神殿活動	8
誘惑	7
家庭訪問	24
知恵の言葉	31
世界に広がる教会	32, F4
青少年	25



専任宣教師

2001年9月(263期生)16人・海外2人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



あきの こう
秋野 洸
東京南伝道部
奈良地方部
名張支部



あさひなちづる
朝比奈千鶴
福岡伝道部
静岡ステーキ
富士ワード



いまいづみだけつね
今泉岳識
仙台伝道部
名古屋ステーキ
御器所ワード



うすい とおる
臼井 徹
福岡伝道部
横浜ステーキ
山手ワード



おおくら あきこ
大倉明子
東京南伝道部
大阪東ステーキ
高槻ワード



えのだ まさき
榎田真紀
仙台伝道部
金沢ステーキ
小松ワード



かわぐちあかこ
川口千賀子
仙台伝道部
大阪ステーキ
泉南ワード



さかもと のりひさ
坂本典久
福岡伝道部
町田ステーキ
厚木ワード



ささやま たかし
笹山孝史
東京南伝道部
東京北ステーキ
坂戸ワード



すぎむらじゅんこ
杉村順子
東京北伝道部
松山地方部
今治支部



はやし けんすけ
林 賢亮
福岡伝道部
名古屋西ステーキ
岐阜第2ワード



ほりかわ しょういちろう
堀川陽一郎
札幌伝道部
名古屋西ステーキ
岐阜第2ワード



ますやま のぞみ
升山 希
東京北伝道部
神戸ステーキ
北六甲ワード



みつや しょう
ミツ谷 晶
名古屋伝道部
静岡ステーキ
静岡ワード



むらかみ まな
村上 愛
札幌伝道部
東京東ステーキ
長生ワード



もりた いくお
森田育生
名古屋伝道部
金沢ステーキ
福井ワード



おびさき しょうこ
小笹陽子
ハワイ・ホノルル伝道部
福岡ステーキ
藤崎ワード



きやうたに まさのり
京谷正宣
オーストラリア
シドニー南伝道部
大阪ステーキ
河内長野ワード

お詫びと訂正

「リアホナ」2001年10月号チャーチ・ニュース9ページ、「日本伝道100周年」の記事に「ホレス・S・エンサイン作曲の『恐れず来たれ、聖徒』が特別に発表された」とありましたのは「……『感謝を神に捧げん』が特別に発表された」の誤りでした。また同11ページの「会場の声」欄において宣教師の「山中真由美姉妹」の項に1文字脱字がありました。お詫びして訂正いたします。

お詫び——日本伝道100周年記念ビデオ・書籍、発刊の遅れについて

●「リアホナ」2001年6月号でお知らせしました、日本伝道100周年記念書籍「世紀を越えて——末日聖徒イエス・キリスト教会伝道100年のあゆみ」・ビデオ「日の出ずる国へ——日本の扉を開けた宣教師たち」は、予想以上のお申し込みを頂いて好評のうちにご予約期間を終了させていただきました。しかしながら諸般の事情により、お届けが遅れております。現在、鋭意制作にあっておりますが、残念ながらビデオのお届けは11月末、書籍のお届けは12月下旬となる見通しです。今しばらくご理解を賜りますようお願い申し上げます。

役員の変動

2001年9月14日から2001年10月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

●鹿児島地方部名瀬支部
支部長:佐藤 真太郎

●日本福岡伝道部
第1副部長:中川 茂
第2副部長:瀬座 一義

●御坊地方部新宮支部
支部長:山田 啓彦

●日本東京東ステーキ
ステーキ会長:横山 喜一
第1副会長:伊佐 善明
第2副会長:田渕 裕哉

●仙台伝道部青森地方部
地方部長:土門 一元
第1副部長:泉田 哲志
第2副部長:鳥越 勇

●名古屋ステーキ御器所ワード
監督:木村 信行

●三重地方部津支部
支部長:大久保 光男

●東京東ステーキ稲毛ワード
監督:Whipple, Charles T.

●東京東ステーキ千葉ワード
監督:宇城 正和

●金沢ステーキ七尾支部
支部長:黒田 浩文

皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験、また地域のニュースなど、全国の読者に紹介したい有意義な情報をお寄せください。

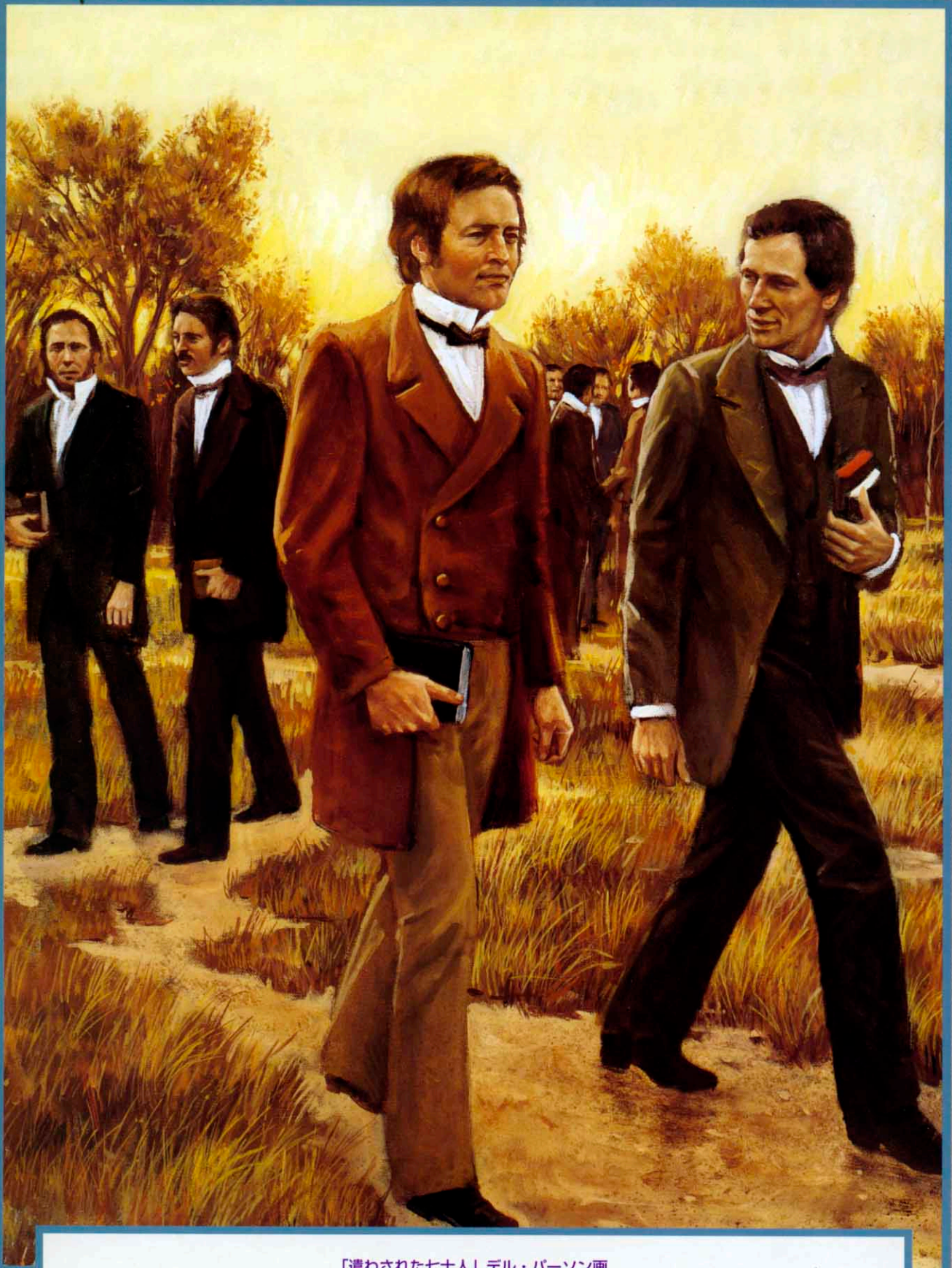
◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。氏名〔フリガナ〕、所属ステーキ/地方部、ワード/支部、MTC入所月、伝道部名を明記のうえ、編集室に写真を添えてお知らせください。デジタルカメラでお撮りになった画像データ(JPEG)を添付しての電子メール入稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。

◎あて先:〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、その他商品に関するお問い合わせは——教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392



「遣わされた七十人」デル・パーソン画

「七十人も召されて、福音を宣べ伝え、異邦人と全世界に対する特別な証人となる。」(教義と聖約107:25)



「**神** 聖な儀式は神によって定められたものです。それらはわたしたちの救いと昇栄に不可欠です。福音の神聖な儀式を通して、わたしたちは神の王国について学び、神について学び、聖なる永遠の聖約に入ります。そして、生活の中で神からの力を授けられます。これらの事柄のすべてがわたしたちをキリストのもとに導き、わたしたちはキリストによって完全になれるのです。」 デニス・B・ノイエンシュバンダー長老「儀式と聖約」16ページ参照。